

学 科	服飾美術専攻	担 当 教 員	古濱 裕樹		
授 業 科 目	品質管理	科目区分	関連科目	2 単 位	
必 修 ・ 選 択	選択	授 業 形 態	講 義	開 講 時 期	1 年次・前期 2 年次・前期 (隔年)
授 業 の 主 題 標	<p>【授業の主題】</p> <p>品質管理は製品を製造するあらゆる業界で重要視され、実施されていることである。服飾を中心とした家庭用繊維製品の製造と品質に主眼を置き、品質管理の基礎から応用までを講義する。</p> <p>【到達目標】</p> <p>繊維製品品質管理士 (TES) の資格取得水準を超える知識を修得する。製品企画、製造・流通における管理、消費者対応など業界の様々な領域で活躍できる能力を獲得する。</p>				
授 業 の 内 容 進 め 方	<ol style="list-style-type: none"> 1. 品質管理の基礎 (1) ～品質管理の概要と実施～ 2. 品質管理の基礎 (2) ～品質管理の手法～ 3. 繊維製品の企画・設計による品質 4. 繊維製品の製造による品質 5. 繊維製品の品質要求項目と消費性能 (1) ～一般繊維製品の品質と性能～ 6. 繊維製品の品質要求項目と消費性能 (2) ～機能性、審美性製品の品質と性能～ 7. 繊維製品の品質に関わる人体の生理機能 8. 繊維製品の試験法と評価 (1) ～繊維、糸、布地～ 9. 繊維製品の試験法と評価 (2) ～製品、染色、加工剤～ 10. 品質苦情を解決するための基本 11. 品質苦情を解決するための知識 12. 品質苦情を処理する手順 13. 品質苦情の事例 (1) ～損傷、外観・形態変化～ 14. 品質苦情の事例 (2) ～風合い、光沢、色の変化～ 15. 品質苦情の事例 (3) ～加工の機能性低下、安全・衛生、表示の不適合～ <p>定期試験は実施しない</p>				
実 務 経 験 を 活 か す 内 容					
テ キ ス ト 教 材	<p>『新改訂版 繊維製品の基礎知識』日本衣料管理協会 (2023)</p> <p>『改訂 繊維製品の品質問題究明ガイド』日本衣料管理協会 (2025)</p>				
事 前 学 習 の 内 容	<p>毎回、次週の授業のテーマを伝えるので、自身の知識や経験を振り返って質問を考え、Google Classroom の質問課題に書き込む。</p>				
事 後 学 習 の 内 容	<p>授業で学んだことや考えたこと、授業後に調べたことをドキュメントにまとめ、Google Classroom に提出する。</p>				
評 価 の 方 法 基 準	<p>予習によるコメント記入 -毎回実施、全 15 回- (20%)</p> <p>授業後の振り返りシート -毎回実施、全 15 回- (80%)</p>				
履 修 上 の 注 意	<p>Google Classroom と Meet によるリアルタイム型の遠隔授業となる。毎回、授業開始時刻までに Google Classroom トップページから Google Meet に入室すること。Google Classroom のクラスコード: 4xtsnslk</p>				

学 科	服飾美術専攻	担 当 教 員	片山 康之		
授 業 科 目	ビジュアルデザイン論		科目区分	関連科目	2 単 位
必 修 ・ 選 択	選択	授業形態	講義	開 講 時 期	1 年次・前期 2 年次・前期 (隔年)
授 業 の 主 題 標	<p>【授業の主題】 倉敷市の離島松島で運営されている松島分校美術館を本科目の教材としながら、現地でのフィールドワークから企画立案、滞在制作などに取り組む。</p> <p>【到達目標】 様々な実践例からデザイン・芸術文化の社会的異議について考察し、それを自身の具体的な活動へと発展させる。</p>				
授 業 の 内 容 進 め 方	<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義の概要説明 (大学にて実施) 2. 松島分校美術館視察 3. 「島と表現」①フィールドワーク 4. 「島と表現」②過去の事例、計画 5. 「島と表現」③中間プレゼンテーション 6. 「制作」①何を表現すべきか考える 7. 「制作」②表現したいことの主題を言葉にする 8. 「制作」③表現したいことに必要な素材を決める 9. 「制作」④各素材に適合した制作方法を考案する 10. 「制作」⑤各テーマに沿った実践・制作 11. 「制作」⑥表現したい主題を確認する 12. 「制作」⑦仕上げ、まとめ 13. 「プレゼンテーション」①発表 14. 「プレゼンテーション」②展示計画 15. 「プレゼンテーション」③展示、ディスカッション <p>定期試験は実施しない</p>				
実 務 経 験 を 活 か す 内 容					
テ キ ス ト 教 材	<p>参考資料 「コミュニティデザイン—人がつながるしくみをつくる」学芸出版 「まなごしのデザイン」NTT 出版</p>				
事前学習の内容	アーティスト・イン・レジデンスについてリサーチする。松島分校美術館の Web サイトを事前準備として閲覧する。				
事後学習の内容	地域アートの取り組みを注視しながら地域の芸術文化やデザインにおける自身の思考拡張を育む。				
評 価 の 方 法 基 準	課題 (100%)				
履 修 上 の 意 注	<p>【場所】集中講義を予定しており、離島にある松島分校美術館で3日間 (8/19, 20, 21) 開講する。なお、台風もしくは風速 10m を超える荒天が予想される場合は渡航を中止し、大学にて島の土を使った陶芸作品の制作を行う。</p> <p>【費用】往復船賃¥2500/1 往復が必要 (3 日間で3 往復の場合¥7500)。</p> <p>【その他】初回「講義の概要説明」において必要な持ち物や島滞在における注意事項を伝えるので必ず出席すること。</p>				

学 科	服飾美術専攻	担 当 教 員	クリストファー・ウォルトン		
授 業 科 目	ビジュアルデザイン演習		科目区分	関連科目	1 単 位
必 修 ・ 選 択	選択	授 業 形 態	演 習	開 講 時 期	1 年次・後期
授 業 の 主 題 目 標	<p>【授業の主題】 イラストレーションを通じた表現、コミュニケーション、プレゼンテーションに重点を置く。 作品課題のテーマは年によって変わり、地域連携プロジェクトが含まれることもある。</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・独創的で説得力のあるコンセプトを開発する。 ・創意に富んだ内容とスタイルのイラストレーション作品とする。 ・目的のメッセージや情報を効果的に伝えるイラストを制作する。 ・アナログ、デジタル両技術を調和させる。 ・Adobe を使用してデジタル制作を行う。 ・効果的なプレゼンテーション手法を用いる。 				
授 業 の 内 容 進 め 方	<p>各プロジェクトの時間的要件や授業の状況に応じて、課題計画を3つのプロジェクトから2つのプロジェクトに調整する可能性がある。</p> <p>プロジェクト1</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 科目の目標、課題計画の概説 2. イラストレーション作品1「Background Research：概説・調査」 3. イラストレーション作品1「Creation：制作」 4. イラストレーション作品1「Retouching：修正」 5. イラストレーション作品1「Completion、Presentation：完成、発表」 <p>プロジェクト2</p> <ol style="list-style-type: none"> 6. イラストレーション作品2「Background Research：概説・調査」 7. イラストレーション作品2「Creation：制作」 8. イラストレーション作品2「Retouching：修正」 9. イラストレーション作品2「Completion、Presentation：完成、発表」 <p>プロジェクト3</p> <ol style="list-style-type: none"> 10. イラストレーション作品3「Background Research：概説・調査」 11. イラストレーション作品3「Creation：制作」 12. イラストレーション作品3「Retouching：修正」 13. イラストレーション作品3「Completion、Presentation：完成、発表」 14. 課題作品まとめ 15. 最終的プレゼンテーション、全体講評・評価 <p>定期試験は実施しない</p>				
実 務 経 験 を 活 か す 内 容					
テ キ ス ト 教 材	『The Art and Flair of Mary Blair』 Disney Editions 2014 『ABCの本』 安野光雅 1974 『Timeline』 Peter Goes 2015 上記に加えて授業課題に関連参考資料を Google Classroom で投稿する。				
事 前 学 習 の 内 容	事前に Google Classroom に指示、配布資料、参考を読み、各授業目的を把握しておくこと。 授業活動に必要な材料、用具、デジタルファイルを持参すること。				
事 後 学 習 の 内 容	授業内容を見直すとともに、課題の要件に従っていることを確認すること。各課題で授業中に進捗状況についてプレゼンを行う、または小レポートを提出すること。				
評 価 の 方 法 基 準	作品制作・提出 (60%)、講評・発表の参加 (20%)、小レポート提出 (20%)				
履 修 上 の 注 意	デジタル制作のために、タブレットとドローイングアプリを使用することが推奨される。 PC 教室で作業する場合は、64GB 以上の USB メモリをご用意ください。				

学 科	服飾美術専攻	担 当 教 員	関 崎 哲		
授 業 科 目	ドローイング I	科目区分	関連科目	1 単 位	
必 修 ・ 選 択	選択	授 業 形 態	演 習	開 講 時 期	1 年 次 ・ 前 期
授 業 の 主 題 標 目	<p>【授業の主題】 モダンテクニックやテクスチャに着目し、それらを用いたイメージの効果的な平面への定着のトレーニングを行う。</p> <p>【到達目標】 与えられた素材と技法を用いて、イメージを平面に定着することができる。</p>				
授 業 の 内 容 進 め 方	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. ポアリングからの表現 3. ドリップングからの表現 4. デカルコマニーからの表現 5. フロッタージュからの表現 6. スタンピングからの表現 7. ステンシルからの表現 8. 水と油の反発を使った表現 9. 揉み紙による表現 10. たらし込みによる表現 11. 漆喰地を使った表現 12. レジンサンドを使った表現 13. モデリングペーストを使った表現 14. ローラー下地を使った表現 15. 講評 <p>定期試験は実施しない</p>				
実 務 経 験 を 活 か す 内 容					
テ キ ス ト 教 材	画集・画像検索等を通じ、適宜提示していく。参考図書『現代の洋画』マリア書房				
事 前 学 習 の 内 容	各自、作品の進捗状況に合わせ、当日の課題箇所を授業前までにイメージしておく。				
事 後 学 習 の 内 容	当日の制作をふり返り、次週での修正箇所をチェックしておく。				
評 価 の 方 法 基 準	全課題提出を前提条件として、作品（100%）で評価する。				
履 修 上 の 注 意	ドローイング I および II を連続的に考えているので、I および II を通じての受講が望ましい。				

学 科	服飾美術専攻	担 当 教 員	関 崎 哲		
授 業 科 目	ドローイングⅡ		科目区分	関連科目	1 単 位
必 修 ・ 選 択	選択	授 業 形 態	演 習	開 講 時 期	1 年 次 ・ 後 期
授 業 の 主 題 目 標	<p>【授業の主題】 ドローイングⅠの経験を活かし、各自設定したテーマの効果的な表現を行う。</p> <p>【到達目標】 技法を複合的に使い、表現意図が的確に反映された作品を制作できる。</p>				
授 業 の 内 容 進 め 方	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション（「ドローイング」に関する美術館鑑賞の有用性についても口述する） 2. 制作1 キャンバス地に漆喰地塗り 3. 制作1 ドリッピング、ポアリング等による下地作り 4. 制作1 作った下地をサンディングする 5. 制作1 画面のしみや浮き上がった文様を元に筆、ペンでデッサン 6. 制作1 形態の掻き込みまたは着彩 7. 制作1 着彩 8. 制作2 キャンバス地に漆喰地塗り 9. 制作2 ドリッピング、ポアリング等による下地作り 10. 制作2 作った下地をサンディングする 11. 制作2 画面のしみや浮き上がった文様を元に筆、ペンでデッサン 12. 制作2 形態の掻き込みまたは着彩 13. 制作2 着彩 14. 美術館および画廊での鑑賞 15. 講評 <p>定期試験は実施しない</p>				
実 務 経 験 を 活 か す 内 容					
テ キ ス ト 教 材	<p>画集・画像検索等を通じ、適宜提示していく。 参考図書『現代の洋画』マリア書房</p>				
事 前 学 習 の 内 容	各自、作品の進捗状況に合わせ、当日の課題箇所を授業前までにイメージしておく。				
事 後 学 習 の 内 容	当日の制作をふり返り、次週での修正箇所をチェックしておく。				
評 価 の 方 法 基 準	全課題提出を前提条件として、作品（100%）で評価する。				
履 修 上 の 意 注	Ⅱは応用編なので、Ⅰを履修していることが望ましい。 開講中に県内の美術館および画廊での鑑賞を行うため、交通費等が自己負担となる可能性がある。実施時期の確定は、展示内容を確認した後に適宜決定する。				

学 科	服飾美術専攻	担 当 教 員	小野 力 (実務経験あり)		
授 業 科 目	立体制作論	科 目 区 分	関連科目	2 単 位	
必 修 ・ 選 択	選択	授 業 形 態	講 義	開 講 時 期	2 年 次 ・ 前 期
授 業 の 主 題 標 目	<p>【授業の主題】 プロダクトデザインについて基礎知識と独自の視点を養い、比較・検討・議論を行う。 プロダクトデザインに関係する材料の特性や加工技術の知識を身につける。 講義後半では基本的な作品制作を課題とし、立体制作および画像を交えたプレゼンテーションを行う。</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プロダクトデザイン及びモデル制作の必要性や手法を理解する。 ・自身で立案するコンセプトに沿うモデル制作が出来る。 				
授 業 の 内 容 進 め 方	<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義概要説明、プロダクトデザインにおける立体制作とは 2. 形の見方と考え方 (デザインの基本要素・形状分析のワーク) 3. デザインプロセスの説明 4. 材料の特性と加工技術 - 1 (木材) 5. 材料の特性と加工技術 - 2 (金属) 6. 材料の特性と加工技術 - 3 (樹脂、ウレタン、他) 7. モデル制作の意味と種類 8. バターナイフ制作 - 1 (概要説明・切り出し) 9. バターナイフ制作 - 2 (粗削り・研磨) 10. バターナイフ制作 - 3 (研磨・仕上げ) 11. アパレル什器のモデル制作課題 - 1 (テーマ設定・コンセプトメイク) 12. アパレル什器のモデル制作課題 - 2 (アイデアスケッチ) 13. アパレル什器のモデル制作課題 - 3 (モデル製作) (作業に余裕のある場合に限り、塗装を実施する。) 14. アパレル什器のモデルプレゼンテーション資料準備 15. アパレル什器のモデルプレゼンテーション、講評 <p>定期試験は実施しない</p>				
実 務 経 験 を 活 か す 内 容	企業でのプロダクトデザイン開発経験を生かし、製品開発検討に係る実践的教育を行う。				
テ キ ス ト 教 材	必要に応じてプリントを配布する。 参考図書：『プロダクトデザイン[改訂版]』(BNN) 参考図書：『モデリングテクニク』(グラフィック社)				
事 前 学 習 の 内 容	前回授業の内容を復習しておくこと。				
事 後 学 習 の 内 容	授業中に完成しなかった課題は次回授業までに完成させておくこと。				
評 価 の 方 法 基 準	中間制作 (30%)、作品プレゼンテーション (70%)				
履 修 上 の 注 意					

学 科	服飾美術専攻	担 当 教 員	小野 力		
授 業 科 目	造形表現論		科目区分	関連科目	2 単 位
必 修 ・ 選 択	選択	授 業 形 態	講 義	開 講 時 期	2 年 次 ・ 後 期 (隔 年)
授 業 の 主 題 標 目	<p>【授業の主題】 過去の専攻科修士論文あるいは、その他デザイン学系論文を中心に紹介しながら、学術論文作成に係る資料収集方法および、整理と資料のまとめ方について考える。 受講者が輪番でデザイン学系論文読解と紹介を行ない、各回のテーマに沿った発表と議論を行なう。</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多くのデザイン学系研究に触れることにより学術論文に慣れる。 ・発表演習と議論を通じて研究発表会における実践的な思考力を身につける。 				
授 業 の 内 容 進 め 方	<ol style="list-style-type: none"> 1. 本授業の概要説明、論文構成の図解・図示方法解説 2. 「デザインの理論と思考」に関する論文紹介と、担当受講者および発表スケジュール決定 3. 受講者による事例紹介と討議 - 1 (デザイン思考) 4. 受講者による事例紹介と討議 - 2 (ヒューマンセンタードデザイン) 5. 受講者による事例紹介と討議 - 3 (スペキュラティブデザイン) 6. 受講者による事例紹介と討議 - 4 (アフォーダンス) 7. 受講者による事例紹介と討議 - 5 (デザインリサーチ) 8. 「デザインの実践領域と応用」に関する論文紹介と、担当受講者および発表スケジュール決定 9. 受講者による事例紹介と討議 - 6 (UX デザイン) 10. 受講者による事例紹介と討議 - 7 (インクルーシブデザイン) 11. 受講者による事例紹介と討議 - 8 (サービスデザイン) 12. 受講者による事例紹介と討議 - 9 (AI・データ駆動型デザイン) 13. 受講者による事例紹介と討議 - 10 (サステナビリティ) 14. デザイン学系以外の論文紹介 15. まとめ・試験 <p>※第 15 回目授業の「試験」は授業時間の一部 (30 分程度) を用いた記述式試験である。</p>				
実 務 経 験 を 活 か す 内 容					
テ キ ス ト 教 材	必要に応じてプリントを配布する。 参考図書：『図解作成の基本』（すばる舎）				
事 前 学 習 の 内 容	前回授業の内容を復習しておくこと。 本講義時間外で、各自担当分の論文を発表するスライドを準備する。				
事 後 学 習 の 内 容	他の受講者の発表内容を復習しておくこと。				
評 価 の 方 法 基 準	発表 (60%)、試験 (40%)				
履 修 上 の 意 注	履修者の学修状況によっては内容（事例収集に係るデータ収集方法等）を若干変更する可能性がある。				

学 科	服飾美術専攻	担 当 教 員	大原 啓市		
授 業 科 目	情報処理論	科目区分	関連科目	2 単 位	
必 修 ・ 選 択	選択	授 業 形 態	講 義	開 講 時 期	1、2 年次・前期
授 業 の 主 題 目 標	<p>【授業の主題】 「特別研究」の遂行および将来の専門職として求められる高度な ICT 活用能力を養う。 効率的な情報管理、生成 AI の倫理的かつ効果的な活用方法を学ぶ。 Canva や Adobe Premiere Pro を用いたクリエイティブな表現技術を習得する。</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特別研究に必要な文献検索能力、および論文執筆に必要な Word の高度な編集機能を習得する。 ・データ活用: アンケート調査の設計から Web での集計・分析、可視化までを一貫して行える。 ・AI リテラシー: 生成 AI を研究や業務の補助ツールとして適切に活用できる。 				
授 業 の 内 容 進 め 方	<ol style="list-style-type: none"> 1. 【第1部: AI 活用と情報収集・管理】オリエンテーションと生成 AI の活用 生成 AI (ChatGPT/Gemini 等) の基礎知識とプロンプトエンジニアリング 研究テーマ探しやアイデア出しにおける AI 活用法と倫理的注意点 2. 特別研究のための学術情報検索術: CiNii、J-STAGE、Google Scholar 等のデータベース活用法 キーワード選定のコツと検索コマンド文献管理の基礎 (引用のルール) 3. Google Workspace によるクラウド活用: Google ドライブによるデータ管理と共有 ドキュメント・スプレッドシートの共同編集機能、タスク管理とスケジュール管理 4. 【第2部: Web 調査と分析】Web アンケートの設計と実施 (Google フォーム) 調査目的に合わせた設問設計 (保育現場・マーケティング調査等を想定) Google フォームの作成と条件分岐等の設定 5. データの集計と分析 (Google スプレッドシート)、回答データの書き出しとクリーニング ピボットテーブルや関数を用いた基礎集計グラフ作成による可視化 6. 調査結果の Web 公開 (Google サイト) Google サイトを用いたポートフォリオや調査報告サイトの構築、 分析結果 (グラフ) の埋め込みとプレゼンテーション 7. 【第3部: デザインとマルチメディア表現】 デザインの基礎とブランディング (Canva 1)、デザインの4原則 (近接・整列・反復・コントラスト)、 Canva の基本操作と名刺作成 (自己 PR・パーソナルブランディング) 8. 広報物の作成 (Canva 2) 目的に応じたチラシ・ポスター作成、服飾: 展示会告知・ブランドブック素材、AI 画像生成 機能の活用 9. 動画編集の理論と Adobe Premiere Pro 入門 動画制作のフローと絵コンテ作成、Premiere Pro のインターフェースと基本操作 10. 動画編集 実践1 (カット・トランジション) 素材の取り込みとカット編集、シーン切り替えの演出 (トランジション) 11. 動画編集 実践2 (テロップ・BGM・書き出し) テロップ (字幕) のデザインとアニメーション、音量調整と BGM・ナレーションの挿入、用途に 合わせた動画の書き出し (YouTube 用、Instagram 用など) 12. 【第4部: 特別研究論文の執筆技術】 長文ドキュメントの構造化 (Word 1): 「スタイル」機能の徹底活用 (見出し1、見出し2等の設定) アウトライン機能を使った論文構成の整理 13. 論文の体裁と自動化 (Word 2): 目次の自動作成と更新 図表番号の挿入と相互参照 (本文中で図表 番号がずれないようにする) ヘッダー・フッターとページ番号のセクション区切り (表紙に番号を振らない設定など) 14. 引用・参考文献と校閲 (Word 3): 参考文献リストの作成ルールと管理機能 校閲機能 (変更履歴の記録・コメント) の使い方 脚注の挿入方法 15. 最終課題制作・総括: 学習したスキルを統合した成果物の最終調整 授業の振り返りと質疑応答 定期試験は実施しない 				
テ キ ス ト 教 材	特定の教科書は使用せず、毎回オリジナルのレジユメや Web 上の最新ドキュメントを使用します。 必要に応じて、Adobe Premiere Pro や Canva の公式チュートリアルを参照します。				
事前学習の内容	各回のテーマに関連する資料 (LMS 等で配布) に目を通し、使用するツールのログイン確認を行っておくこと。				
事後学習の内容	授業内で完了しなかった制作物の続きを行い、各ツールのショートカットキーなどを定着させること。				
評 価 の 方 法 基 準	基礎課題 (20%)、応用課題 (50%)、総合課題 (30%)				
履 修 上 の 注 意	授業では Google アカウント (大学付与) を使用します。パスワード管理を徹底してください。 生成 AI の利用については、大学および授業の方針 (補助ツールとしての利用など) を遵守してください。				

学 科	服飾美術専攻	担 当 教 員	全 円子		
授 業 科 目	国語表現法演習		科目区分	関連科目	1 単 位
必 修 ・ 選 択	選択	授 業 形 態	演 習	開 講 時 期	1、2年次・前期
授 業 の 主 題 標 目	<p>【授業の主題】 話しことば、書きことばの両面から日本語の効果的な表現方法を学ぶことによって、実践力を養う。話しことばの面では、基本的なことからについて理解を深めるだけでなく、スピーチ力や電話応対力を身に付けることが可能となる。書きことばの面では、小論文・レポート・レジュメ・手紙を書く上で望ましい文章表現について確認し実作することで、文章表現力の向上が可能となる。</p> <p>【到達目標】 話しことばについては、ディベートも体験することで、コミュニケーション能力を高めるだけでなく、論理的に話す能力を身につける。書きことばについては、社会人になった時、現場で対応できる文章力を実作を通して確認する。</p>				
授 業 の 内 容 進 め 方	<ol style="list-style-type: none"> 1. シラバス説明、ポートフォリオについての説明、第1課（日本語の話し方 振り返り） 2. 第1課（日本語の話し方 本文） 3. 第4課（スピーチをしよう） 4. 自己PR（第1グループ）、第2課（日本語の表記 振り返り） 5. 自己PR（第2グループ）、第2課（日本語の表記 本文） 6. 自己PR（第3グループ）、第3課（文章表現と文章構成 振り返り） 7. 自己PR（第4グループ）、第3課（文章表現と文章構成 本文） 8. 自己PR（第5グループ）、第5課（小論文・レポート・レジュメ・論文を書こう 振り返り） 9. 第5課（小論文・レポート・レジュメ・論文を書こう 本文） 10. 第6課（敬語を学ぼう 振り返り 本文） 11. 第6課（敬語を学ぼう 練習問題） 12. 第7課（手紙を書こう 振り返り 本文） 13. 第8課（電話をかけよう 振り返り 本文） 14. 第9課（ディベートをしよう 振り返り 本文） 15. 第9課（ディベートをしよう 実践） 自己評価 他者評価 <p>定期試験は実施しない</p>				
実 務 経 験 を 活 か す 内 容					
テ キ ス ト 教 材	<p>テキスト 『改訂新版 基礎から学ぶ日本語表現法』（山根智恵・久木田恵、大学教育出版）</p> <p>参考図書 『敬語再入門』（菊池康人、講談社学術文庫）</p> <p>『新しい国語表記ハンドブック第8版』（三省堂編修所編、三省堂）</p> <p>『大学生と留学生のための論文ワークブック』（浜田麻里他、くろしお出版）</p>				
事前学習の内容	課題とする文章表現について調べる。				
事後学習の内容	毎回授業後に出された課題を、原則次の授業までに行い、提出する。				
評 価 の 方 法 基 準	学修ミニレポートなど授業への取り組み（10%） ポートフォリオ（90%）（1～9課 各課10%）				
履 修 上 の 注 意	なし				

学 科	服飾美術専攻	担 当 教 員	濱田 雄仁		
授 業 科 目	スポーツ1	科目区分	関連科目	1 単 位	
必 修 ・ 選 択	選択	授業形態	実技	開 講 時 期	1年次・前期
授 業 の 主 題 標 目	<p>【授業の主題】 様々なスポーツの実践を通じて、体力の向上を図り、健康を保持増進しようとする意欲や態度を身につける。これまでに体育等であまり経験することのなかったスポーツを主に実践する。</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ・運動の意義について理解できる。 ・各種スポーツのルール等を理解し、実践することができる。 ・各種スポーツの特性を理解し、体力の保持増進に取り組むことができる。 				
授 業 の 内 容 進 め 方	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業ガイダンス、バグギー 2. ピロポロ 3. インディアカ 4. ミニテニス①：基礎的技能の練習 5. ミニテニス②：応用的技能の練習 6. ミニテニス③：ゲームとスキルテスト 7. キックベースボール①：基礎的技能の練習 8. キックベースボール②：応用的技能の練習 9. キックベースボール③：ゲームとスキルテスト 10. フラッグフットボール①：基礎的技能の練習 11. フラッグフットボール②：応用的技能の練習 12. フラッグフットボール③：ゲームとスキルテスト 13. ビーチボール①：基礎的技能の練習 14. ビーチボール②：応用的技能の練習 15. ビーチボール③：ゲームとスキルテスト <p>定期試験は実施しない</p>				
実務経験を活かす内容					
テキスト教材	『大学生のスポーツと健康生活』（福岡大学スポーツ科学部） 必要に応じて、適宜資料を配布する。				
事前学習の内容	普段から軽い運動（体操やストレッチ、ウォーキング等）を行い、体力や体調の維持に努めること。 各種目の基本的なルールについて予習しておくこと。				
事後学習の内容	テキストや配布資料を見直すとともに、授業で扱った内容を復習すること。				
評価の方法基準	ワークシート（20%） スキルテスト（80%）				
履修上の注意	運動ができる服装、体育館用シューズ、タオル、水分補給用の飲み物を準備して臨むこと。				

学 科	服飾美術専攻	担 当 教 員	服飾美術学科全教員		
授 業 科 目	生活文化環境論		科目区分	専門科目	4 単 位
必 修 ・ 選 択	必修	授 業 形 態	講 義	開 講 時 期	1 年次・通年
授 業 の 主 題 目	<p>【授業の主題】 生活文化や生活環境を考えることは単なる知識の集積ではなく、人やモノの関係性をしっかり観ることであり、生き方をデザインすることである。各担当教員が、私たちを取り巻く日常を多様な観点から、またその関係性を紐解きながら問題提起し、受講者が新たな価値基準を発見する授業である。</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 生活環境や文化に対し、多様な観点から理解する力をもつ。 生活の中におこる問題点について独自の視点から、自分の意見が言える。 				
授 業 の 内 容 進 め 方	<ol style="list-style-type: none"> 衣服衛生の立場から、人間と衣服環境の望ましい関係を考える (担当：佐藤) 衣服の機能と快適性・着心地 -肌着、ベビー・キッズアパレル (担当：佐藤) 衣服の機能と快適性・着心地 -UV 対策アパレル、学校制服 (担当：佐藤) マイクロソフト オフィス スペシャリストからみたビジネス文書・論文作成術 (担当：大原) マイクロソフト オフィス スペシャリストからみたエクセル活用術 (担当：大原) ビジネスにおけるエクセル関数術と統計検定 (担当：大原) 科学的、工学的視点から生活文化、生活環境を考える (担当：道明) ものづくりと技術、品質について (担当：道明) ものづくりとブランドについて (担当：道明) 海外の芸術・文化活動の例 (担当：趙) 日本の芸術・文化活動の例 (担当：趙) 現代における問題意識について (担当：趙) 日本の文化や環境を視点として、精神を患わずことと社会について考察する (担当：上村) 坂口安吾の日本文化私観について考察する。 (担当：上村) 現在の日本の文化や環境について具体的な事例から考察する。レポート提出 (担当：上村) 衣服の入手方法と服飾への価値観の変化について (担当：乾) 衣生活の振り返り (担当：乾) 衣生活の振り返りにより、衣生活のあり方を考える (担当：乾) カルト映画を通じて、時代や社会を考察する (担当：田中) 1950～60 年代の音楽表現から見る芸術・文化・社会の考察について (担当：田中) 1970 年代の音楽表現から見る芸術・文化・社会の考察について (担当：田中) 経済効果について：直接の効果と数値化できない効果 (担当：田鹿) 公共財と私的財、排除性と競合性 (担当：田鹿) 芸術・文化施設を経済学的に考える (担当：田鹿) パターンがデザインする快適な生活環境 (担当：福岡) パターンから見る環境問題と倫理 (担当：福岡) パターンに見る生活文化と価値観の多様性 (担当：福岡) デザインとアート (担当：小野) プロダクトデザインから紐解くデザイナーの責任 (担当：小野) デザイナーに必要な能力を考える (担当：小野) <p>定期試験は実施しない 各教員の担当順は都合により変更することがある。</p>				
実 務 経 験 を 活 か す 内 容					
テ キ ス ト 教 材	各担当教員が資料を配布する。 参考図書：松生勝編著『アパレル科学概論』朝倉書店 坂口安吾『日本文化私観—坂口安吾エッセイ選』(講談社文芸文庫)講談社				
事前学習の内容	各担当教員が配付する資料や参考図書などの該当箇所を参照し、学習内容に応じて適宜予習を行うこと。				
事後学習の内容	授業内容を振り返り、各担当教員が提示した課題を完成させる。				
評 価 の 方 法 基 準	提出課題 (80%) 観察記録 (20%)				
履 修 上 の 注 意	学位授与機構に申請する際の「家政学に関する総合的な科目」に相当する。 各教員の担当順は都合により変更することがある。				

学 科	服飾美術専攻	担 当 教 員	上村 晴彦		
授 業 科 目	生活情報論		科目区分	専門科目	2 単 位
必 修 ・ 選 択	選択	授 業 形 態	講 義	開 講 時 期	1 年次・後期
授 業 の 主 題 目 標	<p>【授業の主題】 生活情報における私たちの周囲にある物事を観察しながら、テキストを読んでいく。社会の変化とともにある、私たちの生活における情報のありようについて知り、考察する。</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活を取り巻く情報というあいまいなものの存在について理解することができる。 ・情報がつくっているものごとについて理解することができる。 				
授 業 の 内 容 進 め 方	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 情報とはなにか、生活における情報について 2. 知識と常識 3. 脳の中の入出力 4. 個性について 5. 自己の情報化 6. 意識と言葉 7. 脳内の活動 8. 身体について 9. 共同体について 10. 無意識について 11. 脳の操作 12. 教育について 13. 人ともものこころについて 14. コミュニケーションについて 15. まとめ <p>定期試験は実施しない</p>				
実 務 経 験 を 活 か す 内 容					
テ キ ス ト 教 材	<p>参考資料</p> <p>『バカの壁』養老孟司（新潮新書）、『こころの情報学』西垣通（ちくま新書）、『わかりあえないことからコミュニケーション能力とは何か』平田オリザ（講談社現代新書）</p>				
事前学習の内容	<p>授業で配付された資料に目を通し、発表やレジュメの準備、課題に取り組むこと。 毎回ディスカッションを行うので、指定された箇所をよく読んでくること。</p>				
事後学習の内容	<p>各回のディスカッションに関するコメントを述べる。</p>				
評 価 の 方 法 基 準	<p>発表 (60%) 課題 (40%)</p>				
履 修 上 の 注 意	なし				

学 科	服飾美術専攻	担 当 教 員	宮崎 正宇 (実務経験あり)		
授 業 科 目	生活福祉論	科目区分	専門科目	2 単 位	
必 修 ・ 選 択	選択	授 業 形 態	講 義	開 講 時 期	2 年次・後期
授 業 の 主 題 標 目	<p>【授業の主題】 社会福祉の意義や法制度について学ぶとともに、生活者の視点から、社会福祉の現状と課題について理解する。</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉の意義について理解する。 ・社会福祉の法制度について理解する。 ・社会福祉の現状と課題について理解する。 				
授 業 の 内 容 進 め 方	<ol style="list-style-type: none"> 1. 現代社会と社会福祉 2. 社会福祉と関連法 3. 子ども家庭福祉の現状 4. 子ども家庭福祉の課題 5. 社会保障制度の現状 6. 社会保障制度の課題 7. 障がい児・者福祉の現状 8. 障がい児・者福祉の課題 9. 地域福祉の現状 10. 地域福祉の課題 11. 低所得者の福祉の現状 12. 低所得者の福祉の課題 13. ソーシャルワーク 14. 高齢者福祉の現状 15. 高齢者福祉の課題 <p>定期試験は実施しない</p>				
実 務 経 験 を 活 か す 内 容	児童福祉施設での個人的な体験や相談援助の事例を通して、体系的・実践的な相談援助の価値、知識、技術を教授する。				
テ キ ス ト 教 材	直島正樹・原田旬哉編著『図解で学ぶ保育 社会福祉 (第3版)』萌文書林 2022年 必要に応じて資料を配布する。				
事前学習の内容	テキストの該当部分を読み、概要を把握しておくこと。 授業の中で、発表が必要な事柄についてレポートを提出すること。				
事後学習の内容	授業中のノートや配布資料を見直し、要点を把握しておくこと。 発表に関するコメントシートを提出すること。				
評 価 の 方 法 基 準	発表 (10%)、レポート (50%)、コメントシート (40%)				
履 修 上 の 注 意					

学 科	服飾美術専攻	担 当 教 員	福岡 絹恵		
授 業 科 目	服飾造形実技 I		科目区分	専門科目	1 単 位
必 修 ・ 選 択	選択	授 業 形 態	実習	開 講 時 期	1 年次・後期
授 業 の 主 題 標 目	<p>【授業の主題】 自由にデザインをしたオリジナルジーンズを制作する。 制作を通じ、ジーンズの構造や縫製方法およびデニムの加工方法を習得するとともに、倉敷や児島の文化について学びを深める。特殊ミシンを使用した縫製工程は倉敷市児島産業振興センターの繊維産業ワークスペースを活用し、より実践的なジーンズ縫製の能力を身につける。</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ジーンズの構造や縫製方法、加工方法を理解している。 ・デザインに合わせたジーンズが縫製できる技術を身につけている。 ・倉敷や児島の文化やそれに伴う技術について深く理解している。 				
授 業 の 内 容 進 め 方	<ol style="list-style-type: none"> 1. ジーンズの構造・副資材について、太番手でのミシンの使い方 2. デザイン画の作成 3. 前パンツの作図 4. 後ろパンツの作図 5. オリジナルジーンズへの型紙展開 6. 裁断・印つけ 7. ポケットの作成と取り付け 8. 前たての作成 9. 後ろパンツの作成 10. 股縫いと脇縫い 11. ウエストベルトとベルトループ 12. 試着と裾上げ、加工のための印つけ 13. 特殊ミシンによる縫製 ※学外活動を予定 14. デニム加工 ※学外活動を予定 15. ジーンズの装飾、プレゼンテーションと作品撮影 <p>定期試験は実施しない</p>				
実 務 経 験 を 活 か す 内 容					
テ キ ス ト 教 材	<p>適宜配布。『文化ファッション大系 服飾造形講座(2) スカート・パンツ』文化出版局 参考図書：『文化ファッション大系 服飾造形講座(9) メンズウェア I (体型・シャツ・パンツ)』文化出版局、 『ジーンズソムリエ資格認定試験公式テキスト』岡山県アパレル工業組合(株)児島ファッションセンター</p>				
事 前 学 習 の 内 容	<p>必要な材料(デニム生地)、道具、作成手順の資料の検討を行い、準備する。 お気に入りのデニムパンツを元に作っていくので見つけておく。</p>				
事 後 学 習 の 内 容	<p>製作方法等の振り返りを行う。授業内で終わらなかった課題について、次回までに終えておくこと。</p>				
評 価 の 方 法 基 準	<p>課題作品(50%)、プレゼンテーション(30%)、観察記録(20%)</p>				
履 修 上 の 注 意	<p>特殊ミシンによる縫製とデニム加工の回は現地への集合で、学外にて行います。 体調管理に気をつけて参加して下さい。</p>				

学 科	服飾美術専攻	担 当 教 員	乾 眞理子		
授 業 科 目	服飾造形実技Ⅱ	科目区分	専門科目	1 単 位	
必 修 ・ 選 択	選択	授 業 形 態	実習	開 講 時 期	2 年次・前期
授 業 の 主 題 目	<p>【授業の主題】 過去の衣服史や民族衣装の知識を身につけつつ、より高度な理論・技術・表現力を養う。具体的には、ジャケットもしくはコートの製作を通して、デザインの方法、適した布の選び方、体型に合わせた快適なパターン作り、応用的縫製方法を学ぶ。</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・裏付きジャケットもしくはコートを設計及び縫製し、作り上げることができる。 ・デザインにあった、布・縫製技法を選択できる。 				
授 業 の 内 容 進 め 方	<ol style="list-style-type: none"> 1. ジャケットの歴史と形状について デザイン画作成 2. パターン作成 (身頃) 3. パターン作成 (袖・衿) 4. 仮縫い 5. 試着・パターン修正 6. 表地裁断 7. 裏地裁断・接着芯張 8. 本縫い(1) 身頃・ポケット 9. 本縫い(2) 衿作り 10. 本縫い(3) 衿付け 11. 本縫い(4) 袖作り 12. 本縫い(5) 袖付け 13. 本縫い(6) ボタンホール等 14. 仕上げ 15. 着装・課題提出 <p>定期試験は実施しない</p>				
実務経験を活かす内容					
テ キ ス ト 教 材	<p>『(文化出版局MOOK シリーズ) 誌上・パターン塾 Vol.1.5 ジャケット&コート編』文化出版 参考図書：『文化ファッション大系 改定版・服飾造形講座4 ジャケット・ベスト』文化服装学院編 文化出版局</p>				
事前学習の内容	事前に教科書に目を通しておく。				
事後学習の内容	時間内にできなかったところは、次回までに完成しておく。				
評 価 の 方 法 基 準	提出課題 (80%)、レポート (20%)				
履 修 上 の 意 注	本科の服飾造形実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅳ、専攻科の服飾造形実技Ⅰを履修していることが望ましい。				

学 科	服飾美術専攻	担 当 教 員	福岡 絹恵 (実務経験あり)		
授 業 科 目	服飾造形実技Ⅲ	科目区分	専門科目	1 単 位	
必 修 ・ 選 択	選択	授 業 形 態	実習	開 講 時 期	2 年次・後期
授 業 の 主 題 標 目	<p>【授業の主題】 フォーマルウェアの製作を通じ、コンセプトに基づいた独創的なデザインのパターン展開と、製作方法を理解する。フォーマルウェアに適切な形、素材についても知識を深め、デザインに取り入れる方法を習得する。また、製作した作品とコンセプトのプレゼンテーションを行うことにより、説得力のあるデザインを発信できる能力も身につける。</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フォーマルウェアの定義や適切な形や素材について理解している。 ・コンセプトに基づいたフォーマルウェアのデザイン・製作を行うことができる。 ・高級素材に適した仕立ての処理を行うことができる技術が身についている。 				
授 業 の 内 容 進 め 方	<ol style="list-style-type: none"> 1. フォーマルウェアの定義と素材について・コンセプトの設定 2. ムードボードとデザイン画の作成 3. パターン製作 (1) 身頃・スカート 4. パターン製作 (2) 袖・衿 5. サンプル製作とパターン修正 6. 裁断 (表地・裏地) 7. 接着芯・印つけ 8. 身頃の縫製 9. スカートの縫製 10. ファスナー付け 11. 袖・衿の縫製 12. 裏地の縫製 13. 裏地付け 14. 装飾・仕上げ 15. プレゼンテーションと作品撮影 <p>定期試験は実施しない</p>				
実 務 経 験 を 活 か す 内 容	国内外でのパタンナー／モデリストとしての実務経験を活かし、実践的なデザイン思考力と、それを具体的な形へと落とし込む専門的なプロセスを教授します。				
テ キ ス ト 教 材	『文化ファッション大系 服飾造形講座(3) ブラウス・ワンピース』文化出版局 『文化ファッション大系 服飾造形講座(6) 服飾造形応用編Ⅰ』文化出版局 参考書：『文化ファッション大系 服飾造形講座(4) ジャケット・ベスト』 『誌上・パターン塾 vol.4 ワンピース編』				
事前学習の内容	必要な材料や道具、作成手順の資料の検討を行い、準備する。				
事後学習の内容	製作方法等の振り返りを行う。授業内で終わらなかった課題について、次回までに終えておくこと。				
評 価 の 方 法 基 準	課題作品 (80%) プレゼンテーション (20%)				
履 修 上 の 意 注	服飾造形実技Ⅰ (1年次・後期)・Ⅱ (2年次・前期) を履修していることが望ましい。				

学 科	服飾美術専攻	担 当 教 員	福岡 絹恵 (実務経験あり)		
授 業 科 目	ファッションデザイン論		科目区分	専門科目	2 単 位
必 修 ・ 選 択	選択	授 業 形 態	講 義	開 講 時 期	1 年次・前期
授 業 の 主 題 標 目	<p>【授業の主題】 ファッションデザインをめぐる幅広い知識について学び、ファッションデザインの意味について理解を深める。授業では具体的なデザインを提示しながら、発想法について解説する。</p> <p>【到達目標】 基礎的なファッションデザインの知識やデザイン発想法を修得する。 自身のデザイン力を高める。</p>				
授 業 の 内 容 進 め 方	<ol style="list-style-type: none"> 1. ファッションデザインとは 2. 近代・現代ファッションの変遷 3. ファッションイメージ 4. デザイン発想法 5. デザイン発想の過程 6. デザイン発想の具体例 スポーツ 7. デザイン発想の具体例 絵画 8. ファッションデザインの構成 色彩 9. ファッションデザインの構成 形 10. ファッションデザインの構成 副資材 11. ファッションデザインの法則 12. ファッションデザインにおけるテキスタイルの効果 13. アパレルデザインへの展開 14. アパレル商品企画 15. まとめ・定期試験 				
実 務 経 験 を 活 か す 内 容	国内外でのモデリストや商品企画の実務経験を活かし、実践的なデザイン思考力を教授します。				
テ キ ス ト 教 材	参考書：文化学園大学ファッションデザイン学講座 「ファッションデザイン」 文化出版局				
事前学習の内容	参考資料をよく読んでおくこと。				
事後学習の内容	授業内容を振り返り、課題を完成させる。				
評 価 の 方 法 基 準	授業毎に提出する課題 (40%) 定期試験 (60%)				
履 修 上 の 注 意					

学 科	服飾美術専攻	担 当 教 員	福岡 絹恵 (実務経験あり)		
授 業 科 目	ファッションデザイン演習	科目区分	専門科目	1 単 位	
必 修 ・ 選 択	選択	授 業 形 態	演 習	開 講 時 期	1 年次・後期
授 業 の 主 題 標 目	<p>【授業の主題】 コンセプトに基づいた独創的なデザイン提案をおこない、それに適したパターン作成、製作方法を理解する。デザインコンセプトにふさわしい素材・副資材等についても知識を深め、デザインに取り入れる方法を習得する。また、製作した作品とコンセプトのプレゼンテーションを行うことにより、説得力のあるデザインを発信できる能力も身につける。</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・デザインにあった適切な形や素材について理解している。 ・コンセプトに基づいたデザイン・製作を行うことができる。 ・特殊素材に適した仕立ての処理を行うことができる技術が身につけている。 				
授 業 の 内 容 進 め 方	<ol style="list-style-type: none"> 1. コンセプトの設定 2. ムードボードとデザイン画の作成 3. パターン製作 (1) 身頃・スカート 4. パターン製作 (2) 袖・衿 5. サンプル製作とパターン修正 6. 裁断 (表地・裏地) 7. 接着芯・印つけ 8. 身頃の縫製 9. スカートの縫製 10. ファスナー付け 11. 袖・衿の縫製 12. 裏地の縫製 13. 裏地付け 14. 装飾・仕上げ 15. プレゼンテーションと作品撮影 <p>定期試験は実施しない</p>				
実 務 経 験 を 活 か す 内 容	国内外でのパタンナー／モデリストとしての実務経験を活かし、実践的なデザイン思考力と、それを具体的な形へと落とし込む専門的なプロセスを教授します。				
テ キ ス ト 教 材	資料等は適宜配布する。 参考書：『文化ファッション大系 服飾造形講座(4) ジャケット・ベスト』 『誌上・パターン塾 vol.1.4 ワンピース編』				
事前学習の内容	必要な材料や道具、作成手順の資料の検討を行い、準備する。				
事後学習の内容	製作方法等の振り返りを行う。授業内で終わらなかった課題について、次回までに終えておくこと。グループワークで行う場合もある。				
評 価 の 方 法 基 準	課題作品 (50%)、プレゼンテーション (30%)、毎時間の進捗状況 (20%)				
履 修 上 の 意 注	服飾造形実技 I (1 年次・後期) を併せて履修することが望ましい。				

学 科	服飾美術専攻	担 当 教 員	小野 華子・岩尾 慎一		
授 業 科 目	手工芸演習	科目区分	専門科目	1 単 位	
必 修 ・ 選 択	選択	授 業 形 態	演 習	開 講 時 期	2 年次・後期 (隔年)
授 業 の 主 題 目 標	<p>【授業の主題】 様々な地域に発展した手工芸の技術を実際に学習し作品を制作する。</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・伝統ある帽子の特徴・技術を講義と小物制作をとおして理解する。また、編み技術をはじめとする手工芸の技術を習得し、その背景にある手工芸の文化についての見識を高める。(小野) ・岡山の帆布の特色を理解し、素材に適した縫製、加工を用いて作品を製作する。(岩尾) 				
授 業 の 内 容 進 め 方	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション (担当：小野) 2. 世界各地の帽子の特徴と種類 毛糸の帽子 (担当：小野) 3. ボンボン帽 かぎ針の使い方 (担当：小野) 4. ボンボン帽 作品図案 (担当：小野) 5. ボンボン帽 作品作成 (担当：小野) 6. ボンボン帽 作品を仕上げ 提出 (担当：小野) 7. 世界各地の帽子の特徴と種類 布の帽子 (担当：小野) 8. 帽子の特徴とデザイン (担当：小野) 9. 帽子の素材と制作技術 (担当：小野) 10. 帽子の制作・完成 (担当：小野) 11. 特殊素材と技法 帆布 (担当：岩尾) 12. 自由作品 構想 (担当：岩尾) 13. 自由作品 制作 (担当：岩尾) 14. 自由作品 仕上げ・レポート作成 (担当：岩尾) 15. まとめ (担当：岩尾) 				
実務経験を活かす内容					
テキスト教材	適宜プリント配布。				
事前学習の内容	授業で学んだ技法を復習し、マスターしておく。(小野) 身の回りの帆布製品を観察、評価して作品制作にフィードバックできるようにしておく。(岩尾)				
事後学習の内容	授業内容を振り返り、課題を完成させる。				
評価の方法基準	小野担当分：課題の提出物 (46%)、毎回の振り返りシート (21%)、 岩尾担当分：課題の提出物 (33%)				
履修上の注意	配布したプリントは毎回授業に持参すること。				

学 科	服飾美術専攻	担 当 教 員	乾 眞理子		
授 業 科 目	被服心理学		科目区分	専門科目	2 単 位
必 修 ・ 選 択	選択	授 業 形 態	講 義	開 講 時 期	1 年次・前期 2 年次・前期 (隔年)
授 業 の 主 題 標 目	<p>【授業の主題】 人の被服行動を心理学の視点から分析する。被服行動をとおして、人間というもの、自分というものを見つめなおす。</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・被服の社会・心理的機能を理解する。 ・被服における流行について説明ができる。 ・これからの被服行動について、考えを示すことができる。 				
授 業 の 内 容 進 め 方	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業の進め方の説明・被服の着衣行動 2. 人間の着衣動機 3. 被服による装飾・整容・変身行動 4. 被服の購買・消費行動 5. 被服と流行行動 6. 被服に対する知覚と感情 7. 化粧行動 8. 身体と着衣行動 9. 被服による性の学習と性役割の演出 10. 人間の発達と着衣行動 11. 被服コミュニケーション 12. グループディスカッションに向けて テーマ設定 13. グループディスカッション 14. プレゼンテーション 15. まとめ <p>定期試験は実施しない</p>				
実 務 経 験 を 活 か す 内 容					
テ キ ス ト 教 材	『まとう(新装版)：被服行動の心理学(人間行動学講座)』、中島義明・神山進、朝倉書店 その他、適宜資料を配布する。				
事 前 学 習 の 内 容	普段から被服に関する新しい情報に興味を傾け、問題点等をまとめておく。				
事 後 学 習 の 内 容	関連の資料を探索し、発表内容を考える。				
評 価 の 方 法 基 準	各回の課題(30%)、授業での質問に対する回答(20%)、 発表と発表内容のレポート(50%)				
履 修 上 の 意 注	受講者の人数や受講生の関心によって、順番を入れ替えたり、内容の一部を変更したりする場合がある。				

学 科	服飾美術専攻	担 当 教 員	佐藤 希代子		
授 業 科 目	被服衛生学	科目区分	専門科目	2 単 位	
必 修 ・ 選 択	選択	授業形態	講義	開 講 時 期	2 年次・前期 (隔年)
授 業 の 主 題 目 標	<p>【授業の主題】 快適な被服をデザインするためには、ヒトと物との関わりを、総合的に把握することが重要である。この授業では、ヒトの生体メカニズムを学習した上で、ヒトと物との関わりを評価する方法を学ぶことを目的とする。</p> <p>【到達目標】 ヒトの生理反応や、ヒトと物との関わりについて理解を深めることを目標とする。</p>				
授 業 の 内 容 進 め 方	<ol style="list-style-type: none"> 1. 被服と環境、被服の目的および機能 2. 生体の構造 3. 被服設計における人間因子 (1) 形態的因子 4. 被服設計における人間因子 (2) 体型分類 5. 被服設計における人間因子 (3) 運動機構的因子 6. 被服設計における人間因子 (4) 着心地の評価 7. 人体計測法 8. 生理学的測定法 9. 動作分析法 10. 心理学的測定法 11. 自律神経系、生体リズム 12. 体温、皮膚温、平均皮膚温 13. 発汗、唾液 14. 心拍、血圧、血流 15. まとめ・筆記試験 				
実 務 経 験 を 活 か す 内 容					
テ キ ス ト 材	テキスト：日本家政学会被服衛生部会編『アパレルと健康』井上書院 参考図書：田村照子編著『衣の科学シリーズ 衣環境の科学』建帛社 岡田宣子編著『ビジュアル衣生活論』建帛社 斉藤秀子・呑山委佐子編著『快適服の時代』おうふう 鈴木浩明著『快適さを測る』日本出版サービス				
事前学習の内容	テキストを読了しておくこと。				
事後学習の内容	テキストや講義ノートの確認。				
評 価 の 方 法 基 準	観察記録 (20%)、レポート提出 (30%)、筆記試験 (50%)				
履 修 上 の 意 注	「被服生理学」「被服生理学実験」を履修していることが望ましい。				

学 科	服飾美術専攻	担 当 教 員	佐藤 希代子		
授 業 科 目	被服生理学	科目区分	専門科目	2 単 位	
必 修 ・ 選 択	選択	授 業 形 態	講 義	開 講 時 期	1 年次・後期
授 業 の 主 題 目 標	<p>【授業の主題】 感性豊かな衣服設計を目標とし、温冷感覚、触圧感覚、視覚、聴覚などの諸感覚器官の構造と機能、感覚の主観判定、感覚と生体情報計測の基礎を学習する。そして、それらの感覚の判定に基づいた被服設計について考えることを目的とする。</p> <p>【到達目標】 本授業を通し、ヒトの生理反応について理解を深めることを目標とする。</p>				
授 業 の 内 容 進 め 方	<ol style="list-style-type: none"> 1. アパレルの評価 ―感覚と感性― 2. 生体のシステム (1) 中枢神経系 3. 生体のシステム (2) 脳の機能 4. 温冷感覚 5. 触圧感覚 6. 視覚 7. 聴覚 8. 官能検査法 計測 (1) 主観申告 9. 計測 (2) 脳波 10. 計測 (3) 眼球電図、筋電図 11. 計測 (4) 心電図 12. 計測 (5) 体温、皮膚温 13. 事例 (1) 触・圧刺激 (衣服圧) と筋疲労 14. 事例 (2) 触・圧刺激 (衣服圧) と自律神経系・中枢神経系の反応 15. まとめ・筆記試験 				
実 務 経 験 を 活 か す 内 容					
テ キ ス ト 材	<p>テキスト：岡田宣子編著『ビジュアル衣生活論』建帛社 参考図書：田村照子編著『衣の科学シリーズ 衣環境の科学』建帛社 日本家政学会被服衛生部会編『アパレルと健康』井上書院 斉藤秀子・呑山委佐子編著『快適服の時代』おうふう 鈴木浩明著『快適さを測る』日本出版サービス</p>				
事前学習の内容	テキストを読了しておくこと。				
事後学習の内容	テキストや講義ノートの確認。				
評 価 の 方 法 基 準	観察記録 (20%)、レポート提出 (30%)、筆記試験 (50%)				
履 修 上 の 意 注	「被服生理学実験」受講希望者は、この授業を履修することが望ましい。				

学 科	服飾美術専攻	担 当 教 員	佐藤 希代子		
授 業 科 目	被服生理学実験	科目区分	専門科目	1 単 位	
必 修 ・ 選 択	選択	授 業 形 態	実験	開 講 時 期	1 年次・後期
授 業 の 主 題 目	<p>【授業の主題】 快適な被服の評価をするために、被服等を着用した時の温冷感、圧迫感、肌触りなどの心理量、生理量に関する測定や評価を行い、実験計画、評価手法、解析手法について学習し、生体反応について理解を深める。</p> <p>【到達目標】 快適な被服の評価、快適環境の評価についての実験を集中的に行う。実験テーマについて議論し、実験計画、評価方法、解析方法を考え、学生間相互に被験者となり実験を行う。受講者全員が1つのテーマで実験を行い、これらを通して、生体についての理解を深めることを目標とする。</p>				
授 業 の 内 容 進 め 方	<ol style="list-style-type: none"> 1. 衣服に関する問題点について考え、レポート提出。 2. 提出されたレポートを基に議論し、実験テーマを決定する。 3. 実験内容、評価方法、測定項目の検討。 4. 実験内容、評価方法、測定項目の検討および準備。 5. 実験1（同テーマで被験者を数人確保し、5回程度の実験を実施） 6. 実験1の解析と反省。実験手順・改善点の確認。 7. 実験2（実験1のテーマで実験1とは異なる被験者にてのデータ収集） 8. 実験3（実験1のテーマで実験1・2とは異なる被験者にてのデータ収集） 9. 実験4（実験1のテーマで実験1～3とは異なる被験者にてのデータ収集） 10. 実験5（実験1のテーマで実験1～4とは異なる被験者にてのデータ収集） 11. データの解析 12. データの解析、反省、実験レポートの作成 13. 実験レポートの作成 14. レポート発表・ディスカッション 15. まとめ <p>定期試験は実施しない</p>				
実 務 経 験 を 活 か す 内 容					
テ キ ス ト 材	佐藤希代子著『被服生理学実験プリント』を授業時に配布する。 参考図書：田村照子編著『衣の科学シリーズ 衣環境の科学』建帛社 日本家政学会被服衛生部会編『アパレルと健康』井上書院 岡田宣子編著『ビジュアル衣生活論』建帛社 鈴木浩明著『快適さを測る』日本出版サービス				
事 前 学 習 の 内 容	テキストプリントを読了しておくこと。				
事 後 学 習 の 内 容	「被服生理学」テキストや講義ノートの確認。				
評 価 の 方 法 基 準	観察記録（20%）、レポート提出（50%）、発表（30%）				
履 修 上 の 注 意	「被服生理学」を履修していることが望ましい。 実験に適した動きやすい服装・履物で受講すること。				

学 科	服飾美術専攻	担 当 教 員	道明 伸幸		
授 業 科 目	アパレル材料科学実験		科目区分	専門科目	1 単 位
必 修 ・ 選 択	選択	授 業 形 態	実験	開 講 時 期	1 年次・前期 2 年次・前期 (隔年)
授 業 の 主 題 標 目	<p>【授業の主題】 アパレル材料（繊維、糸、布およびその他高分子材料）の科学についての基礎的な理解を深めるため、繊維・アパレル業界で一般的な繊維試験や、やや高度な方法についても学び、実験を通してそれらの知識を身につける。またアパレルの生産現場における品質に対する考え方についても学ぶ。</p> <p>【到達目標】 アパレル業界で活躍するための知識とその背景、原理を理解し、実際に問題に接したときに十分に対応できるよう準備する。</p>				
授 業 の 内 容 進 め 方	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 備中地区繊維産地（主に児島）における品質評価に対する実態調査 3. 実験 1 ナイロン 66 の界面縮合重合 4. 実験 2 高分子のレオロジー測定—繊維のクリープ測定 5. 実験 3 繊維の引張測定①—糸の伸張特性 6. 実験 4 繊維の引張測定②—糸の節強さ、引掛け強さ 7. 実験 5 布の引張測定—布の伸張特性と異方性 8. 実験 6 布の引裂き測定—ペンジュラム法とシングルタング法 9. 実験 7 布の織密度測定①—画像処理（2次元フーリエ変換）による測定 10. 実験 8 布の織密度測定②—光学回折による測定 11. 実験 9 布のプリーツ性評価—モンサント法 12. 実験 10 快適機能性素材の評価—JIS 法とボーケン法 13. 実験計画検討会—実験テーマと実験手法の検討 14. 実験 11 アパレル材料に関する測定、評価 15. データ整理、レポート作成 <p>定期試験は実施しない</p>				
実 務 経 験 を 活 か す 内 容					
テ キ ス ト 教 材	島崎恒蔵 編著『衣服材料の科学[第3版]』 実験書（開始時に配布する。）				
準 備 学 習 の 内 容	事前に実験書、参考書等をよく読んで内容を把握しておく。				
事 後 学 習 の 内 容	参考文献等をよく読み、実験で得られた結果について考察し、レポートにまとめる。				
評 価 の 方 法 基 準	レポート（80%） 観察記録（20%）				
履 修 上 の 意 注	実験用白衣の着用				

学 科	服飾美術専攻	担 当 教 員	道明 伸幸		
授 業 科 目	アパレルコンピュータ論		科目区分	専門科目	2 単 位
必 修 ・ 選 択	選択	授 業 形 態	講 義	開 講 時 期	1 年次・後期
授 業 の 主 題 標 目	<p>【授業の主題】 インターネットの普及とともにアパレル業界においても電子商取引、企業間ネットワークが急速に進みつつある。また、アパレル CAD・CAM 等においても 3DCAD、レーザー自動採寸システム、衣服シミュレーションなどの新しい技術が生まれている。本授業では、これらのテーマを学修する。</p> <p>【到達目標】 将来アパレル業界で活躍するためにこれらについてその背景と原理を理解し、実際に接したとき十分に対応できるように準備する。</p>				
授 業 の 内 容 進 め 方	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. コンピュータとインターネット、AI について 3. 製造業と IT 4. 流通、小売と IT 5. アパレル EC (電子商取引、ネット通販) 6. アパレル CAD・CAM の概要、衣服シミュレーション 7. コンピュータ 3D 計測システム 8. アパレル工学と自動縫製ロボットへの道 9. e テキスタイル、ウェアラブルコンピュータ 10. 衣服シミュレーション DressingSim 型紙生成、縫製情報付与 11. ボディへの着せつけとシミュレーション計算 12. 衣服シミュレーション アニメーション生成 13. テキスチャーマッピングとビデオ生成 14. 学外展示会、研究会への参加 15. 総まとめ <p>定期試験は実施しない</p>				
実 務 経 験 を 活 か す 内 容					
テ キ ス ト 教 材	<p>必要に応じてプリントを配布。 参考図書：キーワードで学ぶ最新情報トピックス 2025 (日経 BP 社)</p>				
事 前 学 習 の 内 容	事前に参考図書等の該当箇所をよく読んでおくこと。				
事 後 学 習 の 内 容	配布したプリントや参考図書を見返し、授業の復習を行うこと。				
評 価 の 方 法 基 準	レポート (100%)				
履 修 上 の 意 注	学外の展示会・研究会等に参加する場合があります。				

学 科	服飾美術専攻	担 当 教 員	田 鹿 絃		
授 業 科 目	地域経済論	科目区分	専門科目	2 単 位	
必 修 ・ 選 択	選択	授業形態	講義	開 講 時 期	1 年次・前期
授 業 の 主 題 標 目	<p>【授業の主題】 地域経済について理解・考察するための経済学的な理論について学ぶ。経済学的な理論のみならず、理論に関係する事例もあわせて学び、具体的・実践的に地域経済について理解し、考察をしていくことにする。</p> <p>【到達目標】 地域経済を考察するための理論を身につけている。地域経済の現状と問題点についての知識を有している。</p>				
授 業 の 内 容 進 め 方	<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域経済論とは 2. 岡山経済(1) 人口 3. 岡山経済(2) 産業 4. 岡山経済(3) 財政 5. 県内総生産・市町村内総生産 6. 地域の強み・特化係数 7. 立地モデル(1) 理論 8. 立地モデル(2) 事例 9. 地域の雇用と労働 10. 地域福祉と経済 11. スポーツと地域経済 12. 地域開発の歴史 13. 企業誘致 14. 観光と地域活性化 15. まとめ・試験 				
実 務 経 験 を 活 か す 内 容					
テ キ ス ト 教 材	テキストは使用しない。プリントを配布する。 【参考文献】 佐藤泰裕 (2023) 『都市・地域経済学への招待状 (新版)』 有斐閣				
事前学習の内容	地域経済と産業に関する新聞記事に目を通しておく。事前に指示した内容について調べ、概要を把握しておくこと。				
事後学習の内容	ノートや配布資料を見直し、知識を整理すること。				
評 価 の 方 法 基 準	試験 (100%)				
履 修 上 の 意 注					

学 科	服飾美術専攻	担 当 教 員	田 鹿 絃		
授 業 科 目	地域活性化論	科目区分	専門科目	2 単 位	
必 修 ・ 選 択	選択	授 業 形 態	講 義	開 講 時 期	1 年次・後期
授 業 の 主 題 目 標	<p>【授業の主題】 地域活性化の概念、地域を取り巻く経済的な環境、地域活性化の進め方などを経済理論や事例とともに学ぶ。地域活性化に関する論文や報告書を読みながら学んでいくことにする。</p> <p>【到達目標】 地域活性化施策についての知識を有している。他の地域の事例や諸概念を用いながら身近な地域活性化についてのアイデアを提示することができる。</p>				
授 業 の 内 容 進 め 方	<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域活性化とは 2. 日本経済・地域経済の概観 3. 定住人口、交流人口、関係人口 4. 地元産品を用いた商品開発と地域産業の活性化(1) : 県実施のコンテストを通して岡山県内のモノづくり企業を知る 5. 地元産品を用いた商品開発と地域産業の活性化(2) : 企業調べをもとにして県実施のコンテストのアイデア出しを行う 6. 地元産品を用いた商品開発と地域産業の活性化(3) : 県実施のコンテスト提出作品の発表・提出 7. スポーツによる地域活性化(1) 理論 8. スポーツによる地域活性化(2) 事例 9. スポーツによる地域活性化(3) 論点整理 10. コンテンツツーリズムと地域活性化(1) 理論 11. コンテンツツーリズムと地域活性化(2) 事例 12. コンテンツツーリズムと地域活性化(3) 論点整理 13. 日本遺産(1) 日本遺産とは 14. 日本遺産(2) 倉敷の日本遺産、牛久の日本遺産 15. 授業全体のまとめ・試験 				
実 務 経 験 を 活 か す 内 容					
テ キ ス ト 教 材	テキストは使用しない。プリントを配布する。 【参考文献】 木田悟他編 (2013) 『スポーツで地域を拓く』 東京大学出版会 『経済のプリズム』 参議院事務局企画調整室				
事前学習の内容	事前に配布するまちづくりに関する資料に目を通しておく。事前に指示した内容について調べ、概要を把握しておくこと。				
事後学習の内容	講義ノートや配布資料を見直すとともに、紹介した概念や事例を倉敷市でも応用可能であるかを考え、アイデアや課題についてまとめておくこと。				
評 価 の 方 法 基 準	試験 (70%)、作品の制作と提出 (30%)				
履 修 上 の 注 意	なし				

学 科	服飾美術専攻	担 当 教 員	田 鹿 絃		
授 業 科 目	地域活性化論	科目区分	専門科目	2 単 位	
必 修 ・ 選 択	選択	授 業 形 態	講 義	開 講 時 期	2 年次・前期 (隔年)
授 業 の 主 題 目 標	<p>【授業の主題】 地域活性化の概念、地域を取り巻く経済的な環境、地域活性化の進め方などを経済理論や事例とともに学ぶ。地域活性化に関する論文や報告書を読みながら学んでいくことにする。</p> <p>【到達目標】 地域活性化施策についての知識を有している。他の地域の事例や諸概念を用いながら身近な地域活性化についてのアイデアを提示することができる。</p>				
授 業 の 内 容 進 め 方	<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域活性化とは 2. 日本経済・地域経済の概観 3. 定住人口、交流人口、関係人口 4. スポーツによる地域活性化(1) 理論 5. スポーツによる地域活性化(2) 事例 6. スポーツによる地域活性化(3) 論点整理 7. コンテンツツーリズムと地域活性化(1) 理論 8. コンテンツツーリズムと地域活性化(2) 事例 9. コンテンツツーリズムと地域活性化(3) 論点整理 10. 地元産品を用いた商品開発と地域産業の活性化(1) 理論 11. 地元産品を用いた商品開発と地域産業の活性化(2) 事例 12. 地元産品を用いた商品開発と地域産業の活性化(3) 論点整理 13. 日本遺産(1) 日本遺産とは 14. 日本遺産(2) 倉敷の日本遺産、牛久の日本遺産 15. 授業全体のまとめ・試験 				
実 務 経 験 を 活 か す 内 容					
テ キ ス ト 教 材	テキストは使用しない。プリントを配布する。 【参考文献】 木田悟他編 (2013) 『スポーツで地域を拓く』 東京大学出版会 『経済のプリズム』 参議院事務局企画調整室				
事前学習の内容	事前に配布するまちづくりに関する資料に目を通しておく。事前に指示した内容について調べ、概要を把握しておくこと。				
事後学習の内容	講義ノートや配布資料を見直すとともに、紹介した概念や事例を倉敷市でも応用可能であるかを考え、アイデアや課題についてまとめておくこと。				
評 価 の 方 法 基 準	試験 (100%)				
履 修 上 の 意 注	なし				

学 科	服飾美術専攻	担 当 教 員	青山 允隆		
授 業 科 目	流通論	科 目 区 分	専門科目	2 単 位	
必 修 ・ 選 択	選択	授 業 形 態	講 義	開 講 時 期	1 年次・前期
授 業 の 主 題 標 目	<p>【授業の主題】 流通論の基礎を学ぶことで、日々の買い物で利用する商店からダイナミックな企業間関係を連想することができるようになることを目的としている。講義内容は、商業はなぜ必要なのか、流通システムを分析する視点、流通システムが持つ基本的な機能、流通システムを構成する主要なプレーヤーの特徴等によって構成されている。</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 商業が存在することで、世の中にどのような便益をもたらしているのか理解できる。 ・ 商業を含む流通システムを構成する基本的な機能がどのようなものか理解できる。 ・ 流通参加者個々の特徴を把握することが出来る。 				
授 業 の 内 容 進 め 方	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス（流通論の全体像と本講義の位置づけ） 2. 流通システムの成り立ちと商業者 3. 流通の分析アプローチ 4. 商流 5. 物流 6. 情報流 7. 流通をシステムとして理解する（前半のまとめ） 8. 小売商業の構造 9. 卸売商業の構造 10. メーカー流通 11. 産業財流通 12. プレーヤー別に見た流通システム（後半のまとめ） 13. DVD 視聴学修「おいしいコーヒーの真実」 14. コーヒーの流通革新と産地 15. まとめ・期末試験 				
実 務 経 験 を 活 か す 内 容					
テ キ ス ト 教 材	<p>【参考図書】</p> 高嶋克義(2012)『現代商業学 新版』有斐閣アルマ 矢作敏行(1996)『現代流通』有斐閣アルマ				
事 前 学 習 の 内 容	シラバスに記載されている毎回の授業テーマに沿った用語の確認を行い、授業に向かうための予備知識を得ておくこと。				
事 後 学 習 の 内 容	講義で学んだ内容を復習する。				
評 価 の 方 法 基 準	期末試験 (100%)				
履 修 上 の 注 意	Google classroom 及び Meet による遠隔授業（オンライン）にて実施する。				

学 科	服飾美術専攻	担 当 教 員	岩崎 之勇		
授 業 科 目	ブランド論	科目区分	専門科目	2 単 位	
必 修 ・ 選 択	選択	授業形態	講義	開 講 時 期	1 年次・後期
授 業 の 主 題 標 目	<p>【授業の主題】 マーケティングにおけるブランドの役割、ブランドに関する基礎および事例研究について学ぶ。</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ブランドマーケティングについて全体像を理解する。 ・ブランドマーケティングで使われる基本的用語を理解する。 				
授 業 の 内 容 進 め 方	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業概要・ガイダンス、ブランドとは 2. ブランドマーケティングの考え方 3. ブランドメンテナンスとブランド再構築 4. 顧客視点によるブランド価値評価 5. 新ブランドの開発 6. ブランド名の開発パターン 7. 企業ブランドとは 8. ブランド体系とカテゴリー 9. ブランドコミュニケーション 10. ブランド広告のフレーム 11. ブランド調査方法 12. ブランドの潜在価値 13. ブランドプロジェクトの全体設計 14. ブランドマーケティングの留意点 15. まとめ・試験 				
実務経験を活かす内容					
テキスト教材	株式会社インプレス R&D POD 出版サービス、2020、「ブランディングの教科書」羽田康祐・K_bird				
事前学習の内容	授業の中で指示する事項についての調査を行う。				
事後学習の内容	各回授業で進んだ教科書範囲、配った資料類を復習する。				
評価の方法基準	試験（80%）、中間レポート（20%）				
履修上の注意					

学 科	服飾美術専攻	担 当 教 員	秋庭 淳志		
授 業 科 目	マーケティングコミュニケーション論	科目区分	専門科目	2 単 位	
必 修 ・ 選 択	選択	授業形態	講義	開 講 時 期	2 年次・前期 (隔年)
授 業 の 主 題 標 目	<p>【授業の主題】 マーケティングコミュニケーションの基本的な概念・理論等を学ぶとともに、企業の事例を通じて、その役割や工夫を考察する視点や考え方を身につけることを目的とする。</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企業経営におけるマーケティングコミュニケーションの意義を解説できる。 ・マーケティングコミュニケーションの基本的な概念・理論を説明できる。 ・事例研究において、マーケティングコミュニケーションの役割や工夫を解説できる。 				
授 業 の 内 容 進 め 方	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション/マーケティングコミュニケーションの意義 2. マーケティングコミュニケーションの全体像 3. マーケティングとマーケティングコミュニケーション 4. ブランディングとマーケティングコミュニケーション 5. 価値の構成要素とマーケティングコミュニケーション 6. 顧客の知覚とマーケティングコミュニケーション 7. 顧客の意思決定プロセスとマーケティングコミュニケーション 8. マーケティングコミュニケーションにおける BtoB と BtoC の相違点 9. 行動デザインとマーケティングコミュニケーション 10. 顧客の学習とロイヤルティ形成 11. 顧客体験と期待形成 12. マーケティングコミュニケーションにおけるメディア 13. マーケティングコミュニケーションにおけるクチコミ・推奨 14. インストア・マーチャンダイジングとマーケティングコミュニケーション 15. マーケティングコミュニケーション論まとめ <p>定期試験は実施しない</p>				
実 務 経 験 を 活 か す 内 容					
テ キ ス ト 教 材	<p>【参考図書】</p> クリス フィル・サラ ターンブル『マーケティング・コミュニケーション』、白桃書房、2018 年 石崎 徹ほか『わかりやすいマーケティング・コミュニケーションと広告』、八千代出版、2024 年				
事 前 学 習 の 内 容	共有資料を事前に読み、要点を把握しておく。				
事 後 学 習 の 内 容	授業の要点をまとめ、授業で得た学びとともに小レポートに記載のうえ、提出する。				
評 価 の 方 法 基 準	授業ごとに提出する小レポート (50%)、学期末レポート (50%)				
履 修 上 の 意 注	Google classroom 及び Meet による遠隔授業 (オンライン) にて実施する。 各回の授業の内容は前後する可能性がある。 必要に応じて各回の授業の内容に新たな内容が追加される可能性がある。				

学 科	服飾美術専攻	担 当 教 員	岩崎 之勇		
授 業 科 目	アパレル経営論		科目区分	専門科目	2 単 位
必 修 ・ 選 択	選択	授 業 形 態	講 義	開 講 時 期	2 年次・後期 (隔年)
授 業 の 主 題 標 目	<p>【授業の主題】 経営学の視点からアパレル経営に関する基礎研究、及び消費者行動に関する基礎的事例研究について学ぶ。</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アパレル産業の経営に関する全体像が分かる。 ・アパレル産業の経営に関する基本的な取り組みを理解する。 				
授 業 の 内 容 進 め 方	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業概要・ガイダンス アパレル経営とは 2. 会社の経営とは (1) アパレル企業の構造 3. 会社の経営とは (2) 日本のアパレル企業の成立 4. 企業論 (1) アパレル企業の歴史 5. 企業論 (2) アパレルビジネスの流れ 6. 企業形態論・企業統治論 (1) アパレル企画・開発形態 7. 企業形態論・企業統治論 (2) アパレル産業の流通形態 8. 経営戦略論 (1) アパレル産業の戦略とは 9. 経営戦略論 (2) アパレル産業の戦略方法 10. 経営管理論 アパレル産業の経営管理 11. 企業間関係論 アパレル産業のサプライチェーンマネジメント 12. 生産管理論 アパレル産業の生産管理とQCD 13. 組織デザイン アパレル産業の組織構造 14. 組織行動論 アパレル産業に人的資源管理 15. まとめ・試験 				
実 務 経 験 を 活 か す 内 容					
テ キ ス ト 教 材	<p>【参考文献】</p> <p>『アパレルの終焉と再生』朝日新書 『図解即戦力 アパレル業界のしくみとビジネスがこれ1冊でしっかりわかる教科書』技術評論社</p>				
事前学習の内容	授業の中で指示する事項についての調査を行う。				
事後学習の内容	各回授業で進んだ教科書範囲、配った資料類を復習する。				
評 価 の 方 法 基 準	試験 (80%)、中間レポート (20%)				
履 修 上 の 注 意	なし				

学 科	服飾美術専攻	担 当 教 員	趙 採 沃		
授 業 科 目	デザインマネジメント	科目区分	専門科目	2 単 位	
必 修 ・ 選 択	選択	授業形態	講義	開 講 時 期	2 年次・後期 (隔年)
授 業 の 主 題 目 標	<p>【授業の主題】 現代におけるアート・デザインやマネジメントの環境やあり方を理解する。 自らの観点からデザイン展の企画・制作・発信の一連の全過程を理解する。 実践的な方法論によるアート・デザインマネジメントをめざす。</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次世代におけるアート・デザインのあり方について自らの見解をもつこと。 ・各自におけるコミュニケーション方法や、マネジメント力を身につける。 ・地域を基にデザインマネジメント力を発揮する能力をもつこと。 				
授 業 の 内 容 進 め 方	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. アート・デザイン 3. デザイナーとは？アーティストとは？ 4. マネジメントとは？ 5. マネジメント実践①身の回り 6. ①身の回り：資料収集・計画書の作成 7. 試案①身の回りについての計画案プレゼンテーション 8. 試案①実行・マネジメントについてのプレゼンテーション 9. マネジメント実践②環境 10. ②環境：資料収集・計画書の作成 11. ②環境について計画案のプレゼンテーション 12. ③総合マネジメント実践について 13. 記録・報告・作成 14. ③総合的マネジメント実践についてプレゼンテーション 15. まとめ <p>定期試験は実施しない</p>				
実 務 経 験 を 活 か す 内 容					
テ キ ス ト 教 材	『生き延びるためのデザイン』（ヴィクター・パペネック、壮光舎、1974）ほか 必要に応じて資料配布および作品・著書紹介				
事前学習の内容	授業時に指示した事項について、事前に調べておくこと。 デザインプランニングなどのプレゼンテーションに関する資料や情報を事前に収集しておくこと。				
事後学習の内容	授業の要点をメモした資料を読み直し、授業に課したレポートで提出すること。				
評 価 の 方 法 基 準	プレゼンテーション (50%)、レポート(50%)				
履 修 上 の 注 意	出席率の扱いについては学生便覧に記載のとおり。 基本的な道具が必要な場合、各自で準備・持参。				

学 科	服飾美術専攻	担 当 教 員	趙 採 沃		
授 業 科 目	アート演習 I	科目区分	専門科目	1 単 位	
必 修 ・ 選 択	選択	授 業 形 態	演 習	開 講 時 期	1 年次・前期
授 業 の 主 題 目 標	<p>【授業の主題】 アート造形技法演習 I を踏まえて現代アートにおけるイメージをさらに発展させる。 現代におけるイメージとアート表現との関わりを理解する。 身の周りのものことについての洞察力や、柔軟な思考力を育む。</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イメージに関する各自の制作手法を発掘すること。 ・独自の表現方法を通じて自らの作品制作が遂行できること。 ・アート表現としてのイメージの多様な媒体による操作技術とその応用力を身に付ける。 				
授 業 の 内 容 進 め 方	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 環境とアートについて 3. 環境とアートについて 発想 4. ラフスケッチ画・制作案の発案 5. 制作案の検討と素材集め 6. 環境とアートについて 作品の制作 7. 環境とアートについて 作品の仕上げ 8. 作品のプレゼンテーション 9. メディアとアートについて 現代のメディアアートの概要 10. メディアとアートについて 発想 11. ラフスケッチ画の完成・制作案の作成 12. 素材集め 13. メディアとアートについて 作品の制作 14. メディアとアートについて 作品の仕上げ 15. 作品の展示とまとめ <p>定期試験は実施しない</p>				
実 務 経 験 を 活 か す 内 容					
テ キ ス ト 教 材	『美術からアートへ』（三田村峻右著、鳳山社、1993） 必要に応じて資料配布および作品・著書紹介				
事前学習の内容	事前配布資料を読み、制作に関する概要を把握しておくこと。				
事後学習の内容	授業の課題制作と、小レポートで提出すること。				
評 価 の 方 法 基 準	作品（80%）、プレゼンテーション（20%）				
履 修 上 の 注 意	クロッキー帳など、基本的な描画道具が必要なため、各自で準備し、毎回持参。				

学 科	服飾美術専攻	担 当 教 員	趙 採 沃		
授 業 科 目	アート演習Ⅱ	科目区分	専門科目	1 単 位	
必 修 ・ 選 択	選択	授 業 形 態	演 習	開 講 時 期	1 年 次 ・ 前 期
授 業 の 主 題 目	<p>【授業の主題】 身体をめぐる諸造形的言説を考察する。 様々な身体の機能や、感覚的要素についての思考力・感受性を高める。 身体をモチーフにしたアートの制作及びそれぞれの制作技法の発掘・発展させる。</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身体を造形要素とし、アートや造形が遂行できること。 ・身体を媒体にした作品プレゼンテーション力・デジタルの記録と編集および技術力の習得と発展させること。 ・身体とアートに関する独自の見解をもつこと。 				
授 業 の 内 容 進 め 方	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 20世紀以降、現代美術における身体とアートについて 3. 身体を媒体にしたアートについて (パフォーマンス、イベント、ハプニングなど) 4. 作品の発想：ディスカッション 5. 作品の企画：スケッチ画・制作案作成 6. 作品の制作 ①素材集め 7. 作品の制作 ②表現力と技術の発掘 8. 作品の制作 ③試し制作 9. 作品の制作 ④本制作 10. 作品のプレゼンテーション (実演) 11. 作品のプレゼンテーション (記録) 12. 作品のプレゼンテーション (1回目映像の編集) 13. 作品のプレゼンテーション (2回目映像の完成) 14. 作品の発表 15. まとめ <p>定期試験は実施しない</p>				
実 務 経 験 を 活 か す 内 容					
テ キ ス ト 教 材	『冷たいパフォーマンス』（清水徹+山口勝弘、朝日出版社、1983） 必要に応じて資料配布および作品・著書紹介				
事前学習の内容	事前配布資料を読み、制作に関する概要を把握しておくこと。				
事後学習の内容	授業の課題制作と、小レポートで提出すること。				
評 価 の 方 法 基 準	作品 (60%) 、 プレゼンテーション (40%)				
履 修 上 の 注 意	クロッキー帳など、基本的な描画道具が必要なため、各自で準備し、毎回持参。				

学 科	服飾美術専攻	担 当 教 員	田中 孝明 (実務経験あり)		
授 業 科 目	テキスタイルデザイン論		科目区分	専門科目	2 単 位
必 修 ・ 選 択	選択	授 業 形 態	講 義	開 講 時 期	1 年次・後期 2 年次・後期 (隔年)
授 業 の 主 題 標	<p>【授業の主題】 テキスタイルデザインの特徴の一つである素材の多様性を学び、現代における繊維に関わる文化から繊維産業までの広範囲な視点を基軸とし、デザイン及びクラフトの意義を考察しながら授業を行う。</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本的なテキスタイルの素材、製法を学び、近代から現代までのテキスタイルの動向を考察する。 ・現在のテキスタイルデザインに関わる内容を調査研究し、動向を考察する。 				
授 業 の 内 容 進 め 方	<ol style="list-style-type: none"> 1. テキスタイルデザインとは 2. テキスタイル素材と触覚 3. テキスタイル素材 (ウール) 4. テキスタイル素材 (麻) 5. テキスタイル素材 (綿) 6. テキスタイル素材 (絹) 7. テキスタイル素材 (化学繊維) 8. 撚糸について 9. 産地のテキスタイル 10. テキスタイルデザインの展開 11. テキスタイルデザイン研究 (表現) 12. テキスタイルデザイン研究 (素材) 13. テキスタイルデザイン研究 (生活) 14. テキスタイルデザイン研究 (伝統) 15. テキスタイルデザイン研究 (デザイン) <p>定期試験は実施しない</p>				
実 務 経 験 を 活 か す 内 容	企業における商品開発の実務経験を活かし、デザイン企画、素材、デザイン作成に関しての内容を講義する。				
テ キ ス ト 教 材	『テキスタイルエンジニアリング [1] 原料から糸へ』を参考にする。資料を配布する。				
事 前 学 習 の 内 容	各課題において、授業前の資料収集などを求める場合がある。				
事 後 学 習 の 内 容	各課題において、授業後の調査内容の編集などを求める場合がある。				
評 価 の 方 法 基 準	期日指定のレポート (100%)				
履 修 上 の 意 注	提出物は期日を厳守すること。				

学 科	服飾美術専攻	担 当 教 員	田中 孝明 (実務経験あり)		
授 業 科 目	テキスタイルデザイン演習	科目区分	専門科目	1 単 位	
必 修 ・ 選 択	選択	授 業 形 態	演習	開 講 時 期	1 年次・前期
授 業 の 主 題 標 目	<p>【授業の主題】 デザインに関する情報収集及びデザイン計画の展開を学び、各自が自由にテーマを設定し、ファッション、インテリアに関連した独創的なデザインとして発展、展開する。各課題に対してテーマに基づいたデザイン計画を立て、プレゼンテーション資料作成を通じながらデザインプロセスを修学し、表現する。</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生はデザイン企画を考えるためのプロセスを修学する。 ・学生はテーマに基づいたデザイン計画を遂行する。 				
授 業 の 内 容 方 進 め	<p>各自テーマ設定を行い、ディレクションの企画を計画し、インテリアにおけるデザイン企画制作とウェアブルにおけるデザイン企画制作を行う。</p> <p>授業進行手順</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス、企画課題説明 2. ディレクションのための調査・序章 3. ディレクションのための調査・分析 4. ディレクションのための調査・展開 5. ディレクション企画計画・序章 6. ディレクション企画計画・展開 7. ディレクション企画課題制作・序章 8. ディレクション企画課題制作・展開 9. ディレクション企画課題制作・編集 10. ディレクション企画課題講評会 11. デザイン企画調査 12. デザイン企画課題制作・序章 13. デザイン企画課題制作・分析 14. デザイン企画課題制作・展開 15. デザイン企画課題講評会 <p>定期試験は実施しない</p>				
実 務 経 験 を 活 か す 内 容	企業における商品開発の実務経験を活かし、デザイン企画、色彩計画、デザイン作成に関する実践的教育を行う。				
テ キ ス ト 教 材	参考図書：『インテリアトレンドビジョン』 資料を配布する。				
事前学習の内容	各課題において、授業前の資料収集、デザインなどを求める。				
事後学習の内容	各課題において、作品制作後のデザイン探求。				
評 価 の 方 法 基 準	期日指定の作品 (100%)				
履 修 上 の 意 注	演習による作品制作が多く、提出物は毎回期日を厳守すること。				

学 科	服飾美術専攻	担 当 教 員	田中 孝明 (実務経験あり)		
授 業 科 目	テキスタイルデザイン演習Ⅱ	科目区分	専門科目	1 単 位	
必修・選択	選択	授業形態	演習	開 講 時 期	2 年次・前期
授 業 の 主 題 目	<p>【授業の主題】 ものづくりのプロセスを学び、作品課題を展開するための資料収集、試作などを繰り返し体験する。各自自由にテーマを選択し、デザイン及びアートの視点で作品を完成させることを目標とする。表現方法の拡大のため多様な方法を駆使し目的に沿って完成させる。</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生はテキスタイルに関わるデザイン、アートの展開事例を知る。 ・学生はテーマに基づいたデザイン及びアート計画を遂行する。 				
授 業 の 内 容 方 進 め	<p>多様なデザイン表現のスキルやテクニックを拡大し各自で開発する。プランニングを通じて、サンプル制作及び企画制作を行う。</p> <p>授業進行手順</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス、作品課題説明 2. 素材をテーマにしたデザイン企画課題制作 (ディスカッション) 3. 素材をテーマにしたデザイン企画課題制作 (資料収集) 4. 素材をテーマにしたデザイン企画課題制作 (資料調査) 5. 素材をテーマにしたデザイン企画課題制作 (展開) 6. 素材をテーマにしたデザイン企画課題制作 (アイデア出し) 7. 素材をテーマにしたデザイン企画課題制作 (試作) 8. 素材をテーマにしたデザイン企画課題制作 (再構成) 9. 素材をテーマにしたデザイン企画課題制作 (編集) 10. 感覚をテーマとしたデザイン企画課題講評会 11. 感覚をテーマとしたデザイン課題制作 (ディスカッション) 12. 感覚をテーマとしたデザイン課題制作 (資料収集) 13. 感覚をテーマとしたデザイン課題制作 (アイデア出し) 14. 感覚をテーマとしたデザイン課題制作 (試作) 15. 感覚をテーマとしたデザイン課題制作講評会 <p>定期試験は実施しない</p>				
実 務 経 験 を 活 か す 内 容	企業における商品開発の実務経験を活かし、デザイン企画、色彩計画、デザイン作成に関する実践的教育を行う。				
テ キ ス ト 教 材	参考図書：『DESIGNING DESIGN』 資料を配布する。				
事前学習の内容	各課題において、授業前の資料収集、デザインなどを求める。				
事後学習の内容	各課題において、作品制作後のデザイン探求。				
評 価 の 方 法 基 準	期日指定の作品 (100%)				
履 修 上 の 意 注	演習による作品制作が多く、提出物は毎回期日を厳守すること。				

学 科	服飾美術専攻	担 当 教 員	田中 孝明		
授 業 科 目	工芸染織	科目区分	専門科目	1 単 位	
必 修 ・ 選 択	選択	授 業 形 態	演 習	開 講 時 期	1 年次・後期
授 業 の 主 題 目 標	<p>【授業の主題】 織り表現を取得し、基本的な織組織から布をつくることを修学する。テキスタイル表現としてのテクスチャと造形表現を修得し、自らデザインした作品を制作する。</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生は布の構造及び織り表現及び技法を修学することができる。 ・学生は織りによる布の造形表現及びデザイン展開を遂行する。 				
授 業 の 内 容 進 め 方	<p>授業進行手順</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス、課題説明 2. テーマ課題制作 (アイデア出し) 3. テーマ課題制作 (織物構想) 4. テーマ課題制作 (織物設計) 5. テーマ課題制作 (織り装置の準備) 6. テーマ課題制作 (織り装置の経糸準備) 7. テーマ課題制作 (織り装置の経糸調整) 8. テーマ課題制作 (織り装置の開口調整) 9. テーマ課題制作 (織り装置の最終調整) 10. テーマ課題制作 (織り表現の作業説明) 11. テーマ課題制作 (織り表現説明) 12. テーマ課題制作 (織り作業) 13. テーマ課題制作 (織り作業・展開) 14. テーマ課題制作 (仕上げ) 15. テーマ課題制作講評会 <p>定期試験は実施しない</p>				
実 務 経 験 を 活 か す 内 容					
テ キ ス ト 教 材	<p>参考図書：『ウィーヴィング・ノート』 資料を配布する。</p>				
事 前 学 習 の 内 容	各課題において、授業前の資料収集、デザインなどを求める。				
事 後 学 習 の 内 容	各課題において、作品制作後の造形探求。				
評 価 の 方 法 基 準	期日指定の作品 (100%)				
履 修 上 の 意 注	演習による作品制作が多く、提出物は毎回期日を厳守すること。				

学 科	服飾美術専攻	担 当 教 員	上村 晴彦 (実務経験あり)		
授 業 科 目	ライフプロダクト論		科目区分	専門科目	2 単 位
必修・選択	選択	授業形態	講義	開 講 時 期	1 年次・前期 2 年次・前期 (隔年)
授 業 の 主 題 標 目	<p>【授業の主題】 身近にあるものごとを観察し、デザインの理解を深める。知覚や運動からアプローチして、デザインに埋め込まれているものを考察する。また、児島地域の場所や風景を中心に、具体的な事例を考察する。生活の中にあるもののデザインと理論との関わりについて知ると同時に冊子にまとめる。</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観察する力とそれを表現する力を身につける。 ・知覚という視点からデザインを考え、制作することができる。 				
授 業 の 内 容 進 め 方	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 身近にあるデザインされたものごとについて 2. アフォーダンスについて 概要 3. アフォーダンスについて 知覚について 4. アフォーダンスについて デザインの視点から 5. アフォーダンスについて 風景という視点から 6. 環境と身体からデザインされている 1 毎日の行為からの考察 7. 環境と身体からデザインされている 2 道具的なものについての考察 8. 環境と身体からデザインされている 3 地面、林と森、建物を考察する。 9. 環境と身体からデザインされている 4 街を考察する。 10. 環境と身体からデザインされている 5 使われながらデザインされ続けることについて 11. 遠景と近景を観察する 12. 関係性をデザインすることについての考察 13. 発表、ディスカッション デザインについて 14. 発表、ディスカッション 児島の風景について 15. 「児島の風景」(冊子)制作 プレゼンテーション <p>定期試験は実施しない</p>				
実 務 経 験 を 活 か す 内 容	デザインの実務経験を活かし、デザインに関わる理論と実践による教育を行う。				
テ キ ス ト 教 材	<p>参考資料</p> <p>『アフォーダンス入門』佐々木正人 (講談社学術文庫)</p> <p>『レイアウトの法則』佐々木正人 (春秋社)</p>				
事前学習の内容	授業で配付された資料に目を通し、課題に必要な資料等の収集と調査を行うこと。				
事後学習の内容	ディスカッションに関するコメントを提出すること。				
評 価 の 方 法 基 準	課題 (60%) プレゼンテーション (40%)				
履 修 上 の 注 意	なし				

学 科	服飾美術専攻	担 当 教 員	上村 晴彦 (実務経験あり)		
授 業 科 目	ライフプロダクト演習 I	科 目 区 分	専門科目	1 単 位	
必 修 ・ 選 択	選択	授 業 形 態	演習	開 講 時 期	1 年次・後期
授 業 の 主 題 標 目	<p>【授業の主題】 現在の社会・経済の仕組み、コミュニティやコミュニケーションについて考察し、身近なものを観察することを通して、デザインや表現を試みる。個々で調査・研究・制作を行い、展示形式による発表を行う（学内外を問わない）。</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活を形成している環境や製品について考察し、問題を提起することができる。 ・発想・伝達・構成する力を軸に、独自性と社会性を伴ったデザインやプロジェクトを提案できる。 				
授 業 の 内 容 進 め 方	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 自分たちの生活環境について 2. 調査・研究1 周囲を観察する。 3. 調査・研究2 身近なものの収集 4. 調査・研究3 収集したものの分類・編集 5. 中間発表（調査・研究のプレゼンテーション） 6. 試作1 収集したものの落とし込み 7. 試作2 パターンの提示・これまでのまとめ 8. 中間発表（試作のプレゼンテーション） 9. 制作1 作品の考えについて 10. 制作2 広報に関するもの 11. 制作3 デザイン、制作 12. 設営、展示 13. 講評、搬出 14. ポートフォリオの作成 15. ポートフォリオのプレゼンテーション <p>定期試験は実施しない</p>				
実 務 経 験 を 活 か す 内 容	デザインと展示の実務経験を活かし、デザイン企画とデザインに関する実践的教育を行う。				
テ キ ス ト 教 材	<p>参考資料</p> <p>『イドコロをつくる 乱世で正気を失わないための暮らし方』伊藤洋志（東京書籍）、「社会の役に立たないという価値 角幡唯介さん語る探検論」（聞き手・中島鉄郎）「2020. 10. 1 朝日新聞デジタル」、「もらいものはもらうもの」内田健太郎『ちゃぶ台』vol.3「教育×地元」号（ミシマ社）</p>				
事 前 学 習 の 内 容	課題に必要な調査と収集を行うこと。				
事 後 学 習 の 内 容	各回後のディスカッションに関するレポートを提出すること。				
評 価 の 方 法 基 準	課題 (80%) プレゼンテーション (20%)				
履 修 上 の 注 意	学外で展示を希望した場合、展示場所の視察や搬入搬出など、別途交通費などが必要になる場合がある。				

学 科	服飾美術専攻	担 当 教 員	上村 晴彦 (実務経験あり)		
授 業 科 目	ライフプロダクト演習Ⅱ	科 目 区 分	専門科目	1 単 位	
必 修 ・ 選 択	選択	授 業 形 態	演習	開 講 時 期	2年次・前期
授 業 の 主 題 標 目	<p>【授業の主題】 身の回りにあるものから企画する力と展覧会の実践を通して、創造とコミュニケーションの能力を鍛える。受講者全員の話し合いを通して、共通のテーマを設定する。個々はそのテーマへのアプローチを試みる。研究と試作を経て、制作を行う。学外での展示形式の発表を予定している。</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身の回りを観察し資料収集する能力を高め、テーマに基づいたデザイン・制作をすることができる。 ・グループワークによるコミュニケーションを前提とした、企画を立案し実践することができる。 				
授 業 の 内 容 進 め 方	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション テーマに関する観察力と視点について 2. テーマに関する情報の収集 3. テーマに関する話し合いとテーマ設定 4. 展示に関する役割決めとスケジュールの作成 5. 展示場所 (学外) についての情報収集と考察 6. 展示場所 (学外) の現地視察 7. 研究・試作1 制作に関する収集 8. 研究・試作2 分類と編集 9. 研究・試作3 これまでのまとめ 10. 中間発表 プレゼンテーション 11. 広報の構想とデザイン 12. 制作1 考えの構築 13. 制作2 全体の構成 14. 搬入、展示 (学外) 15. 講評、搬出 (学外) <p>定期試験は実施しない</p>				
実 務 経 験 を 活 か す 内 容	デザインと展示の実務経験を活かし、デザイン企画とデザインに関する実践的教育を行う。				
テ キ ス ト 教 材	<p>参考資料</p> <p>『ちゃぶ台』 vol.1~3 (ミシマ社)</p> <p>『世界をきちんとあじわうための本』 ホモ・サピエンス道具研究会 (ELVIS PRESS)</p>				
事前学習の内容	課題に必要な調査と収集を行うこと。				
事後学習の内容	各回後のディスカッションに関するレポートを提出すること。				
評 価 の 方 法 基 準	課題 (80%) プレゼンテーション (20%)				
履 修 上 の 意 注	展示場所の視察や搬入搬出など、別途交通費などが必要になる場合がある。				

学 科	服飾美術専攻	担 当 教 員	小野 力		
授 業 科 目	空間演出演習		科目区分	専門科目	1 単 位
必 修 ・ 選 択	選択	授 業 形 態	演 習	開 講 時 期	1、2年次・前期
授 業 の 主 題 標 目	<p>【授業の主題】 製品の展示デザインと模型制作演習を行う。なお、必要スキルについては、適宜トレーニングカリキュラムを組み入れる。 展示模型を計画・制作し、制作物・スピーチ・画像を交えたプレゼンテーションを行う。</p> <p>【到達目標】 ・授業成果をまとめるプレゼンテーションは、各課題を通じて獲得した造形的感覚および、服飾販売に係るアイデアが含まれていることを目標とする。</p>				
授 業 の 内 容 進 め 方	<ol style="list-style-type: none"> 1. 本講義の概要説明・展示エリアに関する討議 2. 製品展示について（講義） 3. 製品展示の実例画像収集 4. 採集画像について発表・討議 5. 製品展示ディスプレイ模型制作にむけたアイデアスケッチと討議 6. 製品展示ディスプレイ模型制作 7. 制作したディスプレイ模型の撮影、作品のまとめ 8. 制作したディスプレイ模型について発表・討議 9. 服飾系店舗模型制作にむけたアイデアスケッチと討議 10. 服飾系店舗模型制作 - 1（床、壁の制作） 11. 服飾系店舗模型制作 - 2（什器等の制作） 12. 服飾系店舗模型制作 - 3（什器、その他製品の制作） 13. 制作した服飾系店舗模型の撮影、作品のまとめ 14. 作品プレゼンテーション準備 15. プレゼンテーション・講義まとめ <p>定期試験は実施しない</p>				
実 務 経 験 を 活 か す 内 容					
テ キ ス ト 教 材	必要に応じてプリントを配布する。 参考図書：『インテリアデザイン教科書第二版』（彰国社） 参考図書：『超図解で全部わかるインテリアデザイン入門』（エクスナレッジ） 参考図書：『モデリングテクニク』（グラフィック社）				
事前学習の内容	前回授業の内容を復習しておくこと。				
事後学習の内容	授業中に完成しなかった課題は次回授業までに完成させておくこと。				
評 価 の 方 法 基 準	中間提出作品（50%）、期末提出作品（50%）				
履 修 上 の 意 注					

学 科	服飾美術専攻	担 当 教 員	服飾美術学科全教員		
授 業 科 目	産業研修 I		科目区分	専門科目	1 単 位
必 修 ・ 選 択	選択	授 業 形 態	実 習	開 講 時 期	1 年次・前期 (集中)
授 業 の 主 題 標 目	<p>【授業の主題】 学外での学びを通じて学習意欲を高めることや就職活動に備え、早い時期から産業界との接点を持ち、実務的な体験を得ることが目的である。</p> <p>【到達目標】 ①大学の学びが社会でどのように活用されているか、またどのような相違があるかを理解する。 ②自分自身の将来について考え、自分自身の適性を確認できるようになる。 ③働く意義を考え、就職活動に対する幅を広げキャリアデザインを描くことができるようになる。</p>				
授 業 の 内 容 進 め 方	<p>【事前指導】 1. 大学生の就職活動における産業研修の意義 (担当: 情報・地域・ビジネスコース教員) 就職活動、採用マッチング、産業研修とは何か、企業と学生にとってのメリット 2. 労働市場の動向 (担当: 情報・地域・ビジネスコース教員) 新卒とは、労働市場の特殊性、労働市場の需要と供給。 3. 産業研修の準備を始めよう (担当: 情報・地域・ビジネスコース教員) 自己分析、業界研究、企業研究、就職支援サイトの活用と問題点、ハローワークの活用。 ※研修先は、大学から紹介する企業・団体および就活支援サイト等が紹介する企業等から各自で選択することができる。</p> <p>【研修の実施】 4. 産業研修の実施 (担当: 服飾美術学科全教員) 企業、行政機関、まちづくり団体で産業研修へ参加。学生は日々、産業研修日誌を記入する。 ※内容、スケジュール、場所は研修先によって異なる。</p> <p>【事後指導】 5. レポート作成 (担当: 服飾美術学科全教員) 自分自身のキャリア形成にどのように役立ったか整理しながらレポートを作成する。お礼状を作成する。</p> <p>定期試験は実施しない</p>				
実 務 経 験 を 活 か す 内 容					
テ キ ス ト 教 材	<p>テキストは使用しない。</p> <p>【参考書】 ・松高政編著 (2024) 『完全版 インターンシップの教科書』ナカニシヤ出版 ・倉敷市立短期大学 学生部・キャリア支援委員会編『進路の手引き (各年度版)』</p>				
事前学習の内容	事前準備として研修先の企業等に関する予備調査をすること。 事前予習を十分行った上で産業研修に臨むこと。				
事後学習の内容	研修内容を振り返り、所定の日誌に記すこと。				
評 価 の 方 法 準 基	産業研修評価シート (50%)、産業研修日誌とレポート (50%)				
履 修 上 の 意 注	<p>産業研修履修説明会には必ず参加すること。 下記の注意点をよく読み、理解した上で履修すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修先によって日程や研修期間 (原則として1週間程度) が異なるので注意すること。 ・研修先の企業等の多大なる協力によって成り立っていることに留意すること。 ・研修先の企業等ごとに、就業規則等に準じて研修を行うため、特別の理由なく遅刻や欠勤をしないこと。また、安全守則を厳守すること。 ・社会人としての規律と自覚を持って研修に参加すること。 ・採用につながる可能性があることを意識すること。 ・原則として2026年8月末日までに研修を終えること。 ・大学が準備している複数の研修先企業リストを提示する。企業の受け入れ可能人数を上回る受講希望があった場合は、研修先を自ら探索・確保することを求める場合がある。 				

学 科	服飾美術専攻	担 当 教 員	服飾美術学科全教員		
授 業 科 目	産業研修Ⅱ		科目区分	専門科目	1 単 位
必 修 ・ 選 択	選択	授 業 形 態	実 習	開 講 時 期	1 年次・後期（集中）
授 業 の 主 題 標 目	<p>【授業の主題】 日ごろ学んでいる知識や技術を用いて、多角的な視点から企業を観察する眼を養うことや、将来自分が希望する就職先企業についての探索、研究など、進路選択の基盤とすることが目的である。</p> <p>【到達目標】 ①大学の学びが社会でどのように活用されているか、またどのような相違があるかを理解する。 ②自分自身の将来について考え、自分自身の適性を確認できるようになる。 ③働く意義を考え、就職活動に対する幅を広げキャリアデザインを描くことができるようになる。</p>				
授 業 の 内 容 進 め 方	<p>【事前指導】 1. 大学生の就職活動における産業研修の意義（担当：情報・地域・ビジネスコース教員） 就職活動、採用マッチング、産業研修とは何か、企業と学生にとってのメリット 2. 労働市場の動向（担当：情報・地域・ビジネスコース教員） 新卒とは、労働市場の特殊性、労働市場の需要と供給 3. 産業研修の準備を始めよう（担当：情報・地域・ビジネスコース教員） 自己分析、業界研究、企業探索、企業研究、就職支援サイトの活用と問題点、ハローワークの活用 ※研修先はゼミの教員と相談しながら、自分自身で探して決定する。</p> <p>【研修の実施】 4. 産業研修の実施（担当：服飾美術学科全教員） 企業、行政機関、まちづくり団体で産業研修へ参加。学生は日々、産業研修日誌を記入する。 ※内容、スケジュール、場所は研修先によって異なる。</p> <p>【事後指導】 5. レポート作成（担当：服飾美術学科全教員） 自分自身のキャリア形成にどのように役立ったか整理しながらレポートを作成する。お礼状を作成する。</p> <p>定期試験は実施しない</p>				
実 務 経 験 を 活 か す 内 容					
テ キ ス ト 教 材	テキストは使用しない。 【参考書】 ・松高政編著（2024）『完全版 インターンシップの教科書』ナカニシヤ出版 ・倉敷市立短期大学 学生部・キャリア支援委員会編『進路の手引き（各年度版）』				
事前学習の内容	事前準備として研修先の企業等に関する予備調査をすること。 事前予習を十分行った上で産業研修に臨むこと。				
事後学習の内容	研修内容を振り返り、所定の日誌に記すこと。				
評 価 の 方 法 基 準	産業研修評価シート（50%）、産業研修日誌とレポート（50%）				
履 修 上 の 意 注	産業研修履修説明会には必ず参加すること。 下記の注意点をよく読み、理解した上で履修すること。 <ul style="list-style-type: none"> ・原則として研修先を自ら探索・確保することを求める。 ・研修先によって日程や研修期間（原則として1週間程度）が異なるので注意すること。 ・研修先の企業等の多大なる協力によって成り立っていることに留意すること。 ・研修先の企業等ごとに、就業規則等に準じて研修を行うため、特別の理由なく遅刻や欠勤をしないこと。また、安全守則を厳守すること。 ・社会人としての規律と自覚を持って研修に参加すること。 ・採用につながる可能性があることを意識すること。 ・原則として2026年12月末日までに研修を終えること。 				

学 科	服飾美術専攻	担 当 教 員	服飾美術学科全教員		
授 業 科 目	特別研究Ⅰ		科目区分	専門科目	4 単 位
必 修 ・ 選 択	必修	授業形態	演習	開 講 時 期	1 年次・通年
授 業 の 主 題 標 目	<p>【授業の主題】 講義・演習・実習・実験等で学んだ知識・技術を応用して、各自のテーマについて研究および課題制作に取り組み、その過程を通じて研究能力または技能を養うと共に、発表の仕方や論文の書き方等について学ぶ。</p> <p>【到達目標】 この過程を通じて独創性・積極性を体得させ、将来必要となる幅広い知識と柔軟な応用力を身につける。特にこの特別研究Ⅰでは、研究テーマの設定、先行研究・制作の調査に重点を置く。</p>				
授 業 の 内 容 進 め 方	<p>本科目は学修総まとめ科目である特別研究Ⅱの準備段階として授業を進める。 履修者が指導教員による指導の下、自らの研究構想を具体的な研究課題の設定につなげ、先行研究をまとめた上で、枠組みとなる理論や研究方法を探り、「研究計画書」を作成する。</p> <p>1～2. オリエンテーション (学位授与制度、履修方法) (担当：専攻科担任) 3～9. 学修・探求の成果論文のテーマ (案) の学修・探求 (担当：ゼミ担当教員) 10～11. 学修・探求の成果論文の内容 (計画) ・過程 (案) の作成 (担当：ゼミ担当教員) 12～13. 学修・探求の成果論文のテーマの着想 (案) の作成 (担当：ゼミ担当教員) 14～15. 学修・探求の成果論文の目的 (案) 、手段・方法 (案) の作成 (担当：ゼミ担当教員) 16～19. 学修・探求の成果論文中間発表会の資料作成 (担当：ゼミ担当教員) 20～21. 学修・探求の成果論文中間発表会 (担当：服飾美術学科全教員) 22～23. 学修・探求の成果論文のテーマ (案) の修正 (担当：ゼミ担当教員) 24～25. 学修・探求の成果論文の内容 (計画) ・過程 (案) の修正 (担当：ゼミ担当教員) 26～27. 学修・探求の成果論文のテーマ (仮) の着想の修正 (担当：ゼミ担当教員) 28～29. 学修・探求の成果論文の目的 (案) 、手段・方法 (案) の修正 (担当：ゼミ担当教員) 30. まとめ</p> <p>定期試験は実施しない</p>				
実務経験を活かす内容					
テキスト教材	各自の研究により教材が異なる。				
事前学習の内容	演習授業の進行状況により、修了論文作成のための論文検索調査など、各ゼミにおいて準備学習についての指示をする。				
事後学習の内容	研究テーマについて自主的な探究を継続すること。				
評価の方法基準	各学生の研究テーマの研究到達度、内容、成果に照らし、服飾美術学科教員が学生ごとに個別に行う。				
履修上の留意	ゼミ担当教員の他の授業科目をできるだけ受講することが望ましい。				

学 科	服飾美術専攻	担 当 教 員	服飾美術学科全教員		
授 業 科 目	特別研究Ⅱ		科目区分	専門科目	4 単 位
必 修 ・ 選 択	必修	授 業 形 態	演 習	開 講 時 期	2 年次・通年
授 業 の 主 題 目	<p>【授業の主題】 講義・演習・実習・実験等で学んだ知識・技術を応用して、各自のテーマについて研究および課題制作に取り組み、その過程を通じて研究能力または技能を養うと共に、発表の仕方や論文の書き方等について学ぶ。</p> <p>【到達目標】 この過程を通じて独創性・積極性を体得させ、将来必要となる幅広い知識と柔軟な応用力を身につける。特にこの特別研究Ⅱでは、修了論文の完成を目指す。</p>				
授 業 の 内 容 進 め 方	<p>学修総まとめ科目としての意義を有する。 特別研究Ⅰで立案した「研究計画書」にもとづき、履修者が指導教員によるさらなる指導の下で、必要な研究課題の再考や修正を加えながら、フィールドでの質的・量的調査や実証実験、文献探索、模型やオブジェ制作等（以下、「調査等」という。）を進め、独自の研究結果を得て、分析・考察を加えた後、修了論文にまとめる。</p> <p>1～12. フィールドでの調査等の実施計画 (担当：ゼミ担当教員) 調査等の方法や調査等の倫理など (担当：ゼミ担当教員) 調査等の計画に沿った研究の準備・実施 (担当：ゼミ担当教員) 履修計画発表 (担当：服飾美術学科全教員) 学修総まとめ科目履修計画書の作成 (担当：ゼミ担当教員)</p> <p>13～16. 調査等の結果の分析結果の読み取り方、まとめ方等 (担当：ゼミ担当教員)</p> <p>17～18. 学修成果発表会発表要旨・プレゼンテーション作成 (担当：ゼミ担当教員)</p> <p>19～20. 学修成果発表会 (担当：服飾美術学科全教員)</p> <p>21～26. 学修・探求の成果論文の修正 (担当：ゼミ担当教員)</p> <p>27～30. 学修総まとめ科目 成果の要旨作成 (担当：ゼミ担当教員)</p> <p>定期試験は実施しない</p>				
実務経験を活かす内容					
テキスト教材	各自の研究により教材が異なる。 各ゼミにおいて、演習内容に即して適宜配布する。				
事前学習の内容	演習授業の進行状況により、修了論文作成のための論文検索調査など、各ゼミにおいて準備学習についての指示をする。				
事後学習の内容	研究テーマについて自主的な探究を継続すること。				
評価の方法基準	授業や研究活動への主体的な取り組み状況 修了論文 学修成果発表会・修了論文報告 学修総まとめ科目成績基準表等を基に判断する。				
履修上の意	発表会の準備、運営は専攻科生の協力のもとで行う。 修了論文の提出期限（提出先：学生部）は、原則として、2年次の2月中旬（別途日時を指定）とする。 ゼミ担当教員の他の授業科目をできるだけ受講することが望ましい。				